

6
B

⑥-B

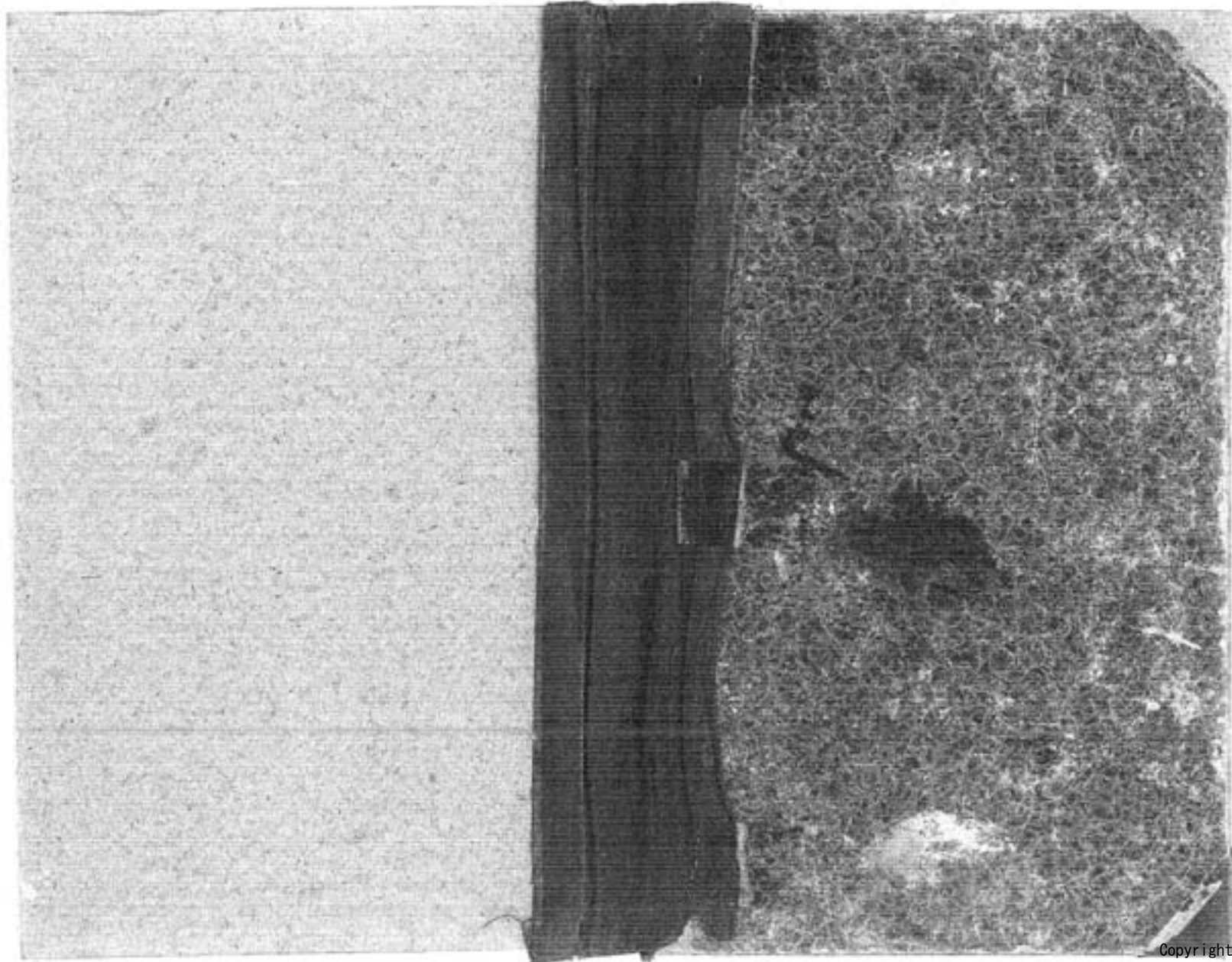
M. 23. 7. 6
~ 8. 7

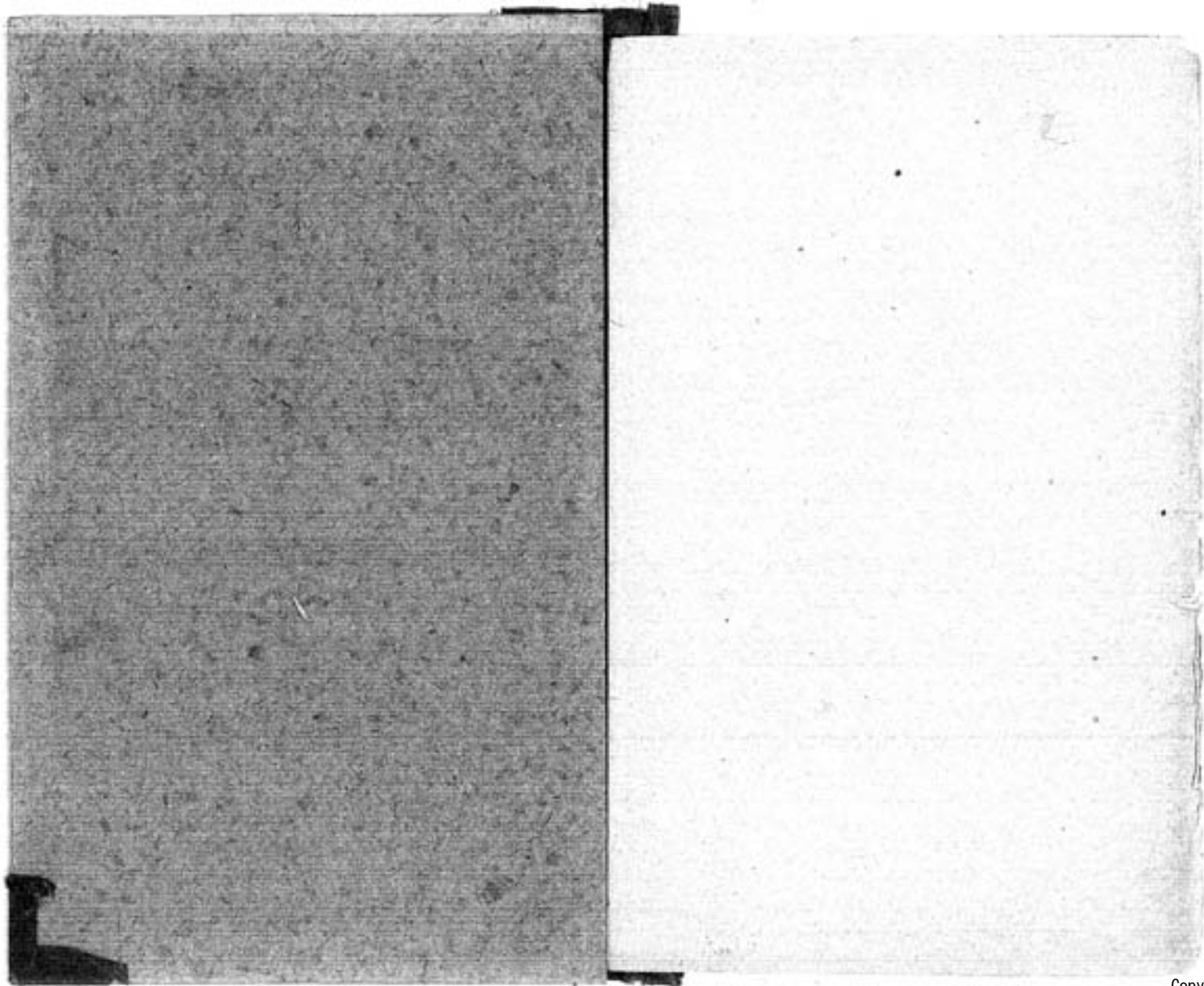
日光方面見学記

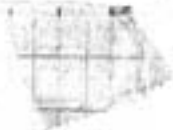
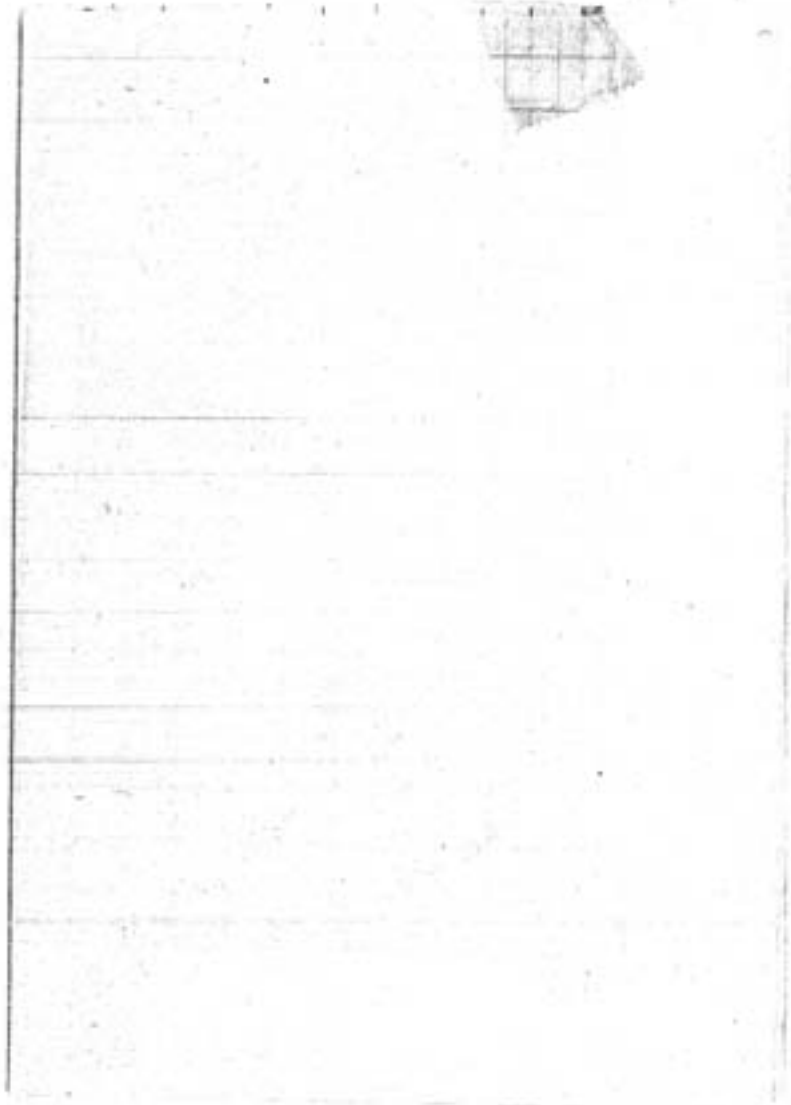
(9.02記了)

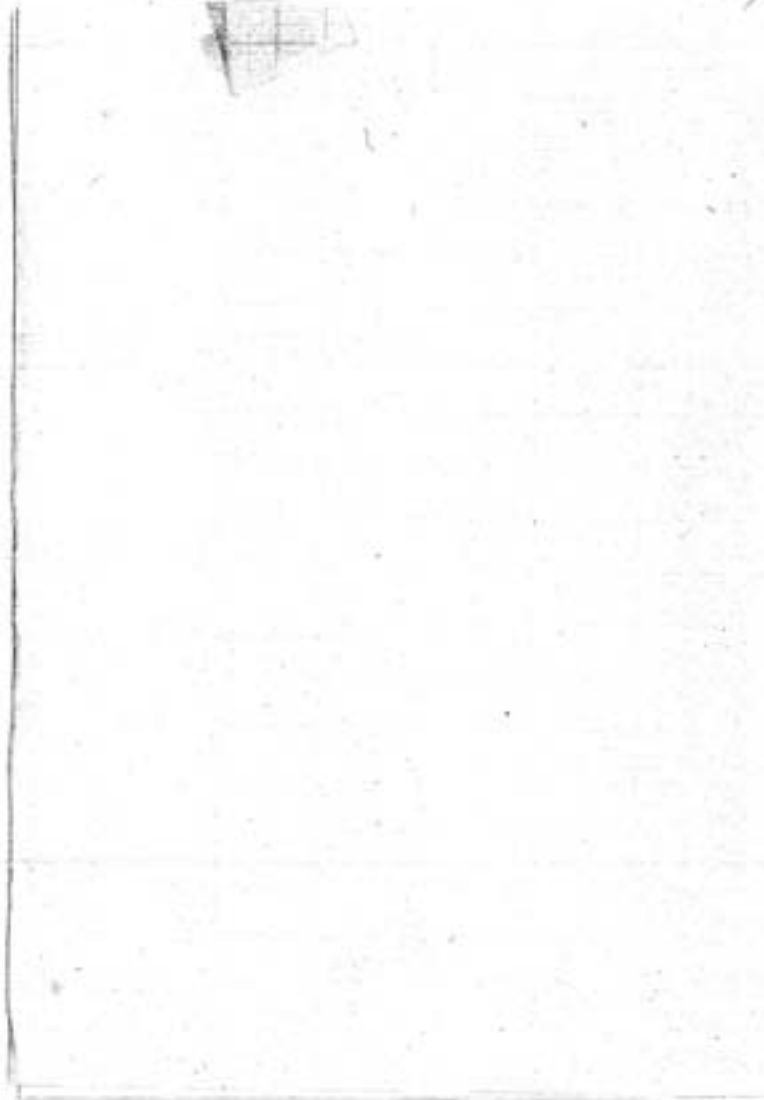
中村達太郎
山下啓次郎
河合茂次
伊東忠太

うきよたび



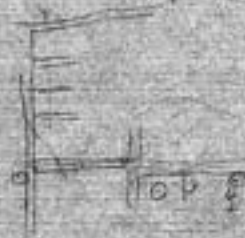






1072-11

左
大
右



くろねのあじ

巻のしるし

くろねのあじ

巻のしるし

中村達吉師君



伊藤忠之助君



山下啓次郎君



河合源次君



緒言

明治二十三年、名物休業、ハ等街研究
 名、以テ余ハ村中村造本、日寄セ
 山下段、即チ余カ家休中ニシテ、
 出テ本亭ヨリ川邊戸ニ出シ又カハツラトモ
 ニ赴キ、即チ余カ家休中ニシテ、
 日暮ヲ果シタルモ、ハ等街ノ趣、
 用テズ、故ニ面白クシテ、
 ベカラズ、モハアツテ、
 ス、書、
 山下ノ三氏ノ學、
 故ニ他、

明治二十三年七月六日

午前五時余ハムクト起キ出テ、先ツ障子ヲ開
 キ、外ノ景色ヲウカヘバ、旭日赤ク東天ニ昇ラズト
 鼠尾若鴉早ク樹間ニ群ガリ啼キ、
 梢ニカツテ南キ地ノ蔭ニモ、
 顔ニモ、吹キ拂ハント、
 志孝、
 外ニ響ク、
 ヲリ藍ニ七色ノ順序ヲ違フテ漸ク變化シ、
 扱フガ、
 五
 リテ、
 車、
 カレテ、
 リテ、
 ハ下等ノ切符ヲ、
 ミテ、
 リテ、
 來、
 為、
 是、
 故、

半ハ破レリ中野ハ有リ中野峯ニ乗ルニタルガ
 彼ハ如何ニ一日暮ルニヤカシキカラズ東条ヲ
 周音律ガハ余モ己ニ経験アリテ左ニ珍ラシ
 テ思ハザルガ周音律以西ハ余セキソア暗ハ
 地ナレバ余ハ忽チ非常ニ感情ヲ起シ頭ヲ驚
 外ニ出シテハ有ノ風景ヲ親染ムルノ景ハ
 酒匂川ノ支流ニ流ヒテ西北ニ向ヒ川ヲ起スル
 高砂路十回隠匿ノ数教壇ニ下ラス句配ハ
 漸次ニ大増シ松田、山北、ヲ經ル頃ハ四十
 分ノ一ニ至リ小山ノ頂ヲ至ラテ兩峰ノ絶頂
 達シ次テ御胎場驛ニ達シテ周音律ヨリニ
 マテハ淡田車ノ列車、驛長、村ニ馬カニ増シ
 テ鉦面ヲ上リタル其勢ハ蛟龍ノ雲ヲ揮テ
 天ニ登ル如ク思ヒアリ。山ノノ風景ハ實ニ
 絶妙ナリ奈山ヲホ澤オラスタ幽學奇技、
 實最ラ見ルコト能ハザリテノ淡田山中ハ暴風
 雨甚シク周回ノ眺望モ著ク之ヲ妨グ
 レリ

御胎場ハ富岳ノ稜ニアリ氣晴天ノ際ハ
 ハ葉笑葉觀然トシ目モハ驚ハ騰然タル
 富岳ノ野ヨリ此如ク絶頂マテ只一瞬
 ノ裡ニ集ノ得ベキナルニ大雨降ルニ一才先
 欠ハ分ナズ 實ニ残念ニ至リテ余ハ此ヲ

旅中ノ中等術研究ハ亦ニトシテ一ニ名山
 大川ヲ見ルヲ最トシテ最大ノ目的トシテ一ニ名山ノ
 一ニカタル富士山ノ見ヘヌコトナレバ余ノ失望ハ果
 シテ如何ノ事ナラン余ハ惘然トシテ天ヲコラシ
 富士ノ望見ヲナレバ眼中ニ教壇ノ涙ヲカヘ
 兩ト相知レテ兩ノ袖ヲ濡ルニ浮腹ノ由
 アルベキヤロ可ク

淡津ヨリ鈴川。岩淵。蒲原、也ダハ富士
 ノ南麓ヲ繞リテ進ミルガ直ニ海岸ニ
 ニ絶頂ヲ布キテリノ風景ノ絶頂ナルハ實ニ
 筆紙ニ述スベカラズ此中ニ佳ノ松原、清
 水港、又淡田ノ眺望モ佳ク静園
 ハヤ山路ニ入リ宇都ノ名峰ニ隱匿アリ
 湯田ニ至リテ遙カ大井川見ニ朝日見
 故事遺蹟ルテ旧情轉々葉ハコト能ハズ
 名ニ高キ海峽ノ大井川ヲ流レバ佐夜
 ハ中山ニ隱匿アリ濃松ノ寺高ニ天龍川ノ江
 龍ノ橋ノ長ク大凡六百間コロリ海道一
 天龍川ト云フベキナリ。舟坂ヲ起シテ右ニ
 濃名湖ヲ見左ニ大海ヲ見中央ニハ只一線ノ
 鉄路ト相並行セシ旧人道アリ 曲折迂
 曲島崎ト橋梁ト相參ルノ風景實ニ幽
 遠ニ望遠ノ内浦蒲原、更ハ地勢一休

北に山あり南に三河湾あり北に水穴山ありて風景
 又ハ見ルベキモノ也況ニ河内ハ島三五あり
 セル伊良古嶋ノ長ハ海中突出ス尾勢遠山
 道・河ノ隈ル景ハ亦化ノ一方ノ海運一ノ風
 景ト称スルヲ得ヘシ。岡崎・岡田・大津・大高。
 秋田ノ陸ヲ六ヶ所トシ名古屋ニ居ス。
 尾張ノ用入リテ以來ハ山岳並ニ一帯ハ丘陵
 岡阜トシ峻峭ハ一帯ノ陸野ハ一帯ノ陸野
 ハ田畑ナリ。ナリ知ル尾州ノ戸口多クテ富
 殷繁昌他州ト違フ勝ルニシアル。名古屋ニ到
 レバ大厦高樓櫛比：車馬往来急ニテコソ
 東ノ尤モ繁華ハ街ニ比シテ僅カニ一歩ノ
 遠ニシ。且ツ其三者：次々大郡トシテ中
 全島ノ富ノ度ハ路ノ秋葉樓ノ段ノ樓ハ名古
 屋ノ一ノ逆張ニシテ家屋頗・壯麗ヲ極メタリ然
 レバ泊料ハ金七拾五錢ノ高貴ニシテ一人茶料
 金一兩ノ要ス。況テ其ノ時ハ流石ノ余ニカシ
 醫ハルコト最モハ難シ。誤テ化ノ後ニテ此
 各ニ供、貨錢ヲ押フ、災難ニ逢ヒ今又コノ萬
 億ハ罹リテ掃ハルベカラズ余ノ囊中忽チ一
 空ニシテ其ノ至リシハ己ノ命ヲ懸ル所ナリ
 此其候待テ渡リ身ヲ紳士トシテ一日返ル
 命ヲ授ケテカ。

階ノ路下ハ徑ヲ百二十八一階ノ高ヲ平均
 三間半アリ五層ヨリ四方ノ風景ヲ眺ムニ其眺
 妙絶佳實ニ名状スベカラズ尾州一月ノ中ニ不
 及伊勢志ヲノ全部ニ河内ノ隈ノ過半及駿遠
 信ノ山々手ニシテ如クニ見ヘ名古屋全市ハ只ダ
 コレ眼下ノ一小斑點ト見エル斗リナリ余ハコノ天下ノ
 見テ莫ク日本建築ノ真意ヲ又コトノ悟リ且ツ清
 正ノ英傑ナルヲ悟リテカ。

尾張名古屋ハ城ヲモツテ該ハ彼ノ金ノ競ア
 ガガナリト景ニ蓋シ其真價ハ競ニテマシテ其規
 模アルナラシカ余又此ノ其名ヲ聞テ今日始メテ
 ツ見ル名ハ實ニ勝ルヲ世ヲ普通ノコトナラズ名古
 屋ノ實情ヲ名ノ腹ニモアルガ如ク置ル哉ソノ
 名益々高ク其市價亦昌フルト。

天下ノ去リテ市街ヲ觀望スル時正午ニシテ即
 チ中村氏ノ余等ヲ誘ヒテ早ヤ亭ト云フ西洋館
 ハ入リテ飽食饌飲シテ尚餘カザルニ至リ
 承レバコノ名古屋市ニハ三ノ洋館アル由キ
 理直ハ少ク申分アルモ一休ノ休裁ニ違フ中
 感心ヲシテ得ズ但シ其都ノ如ク迅速且ツ
 敏捷ナラス然レバ然ル傾ルハ是非ニシ
 一般ニ名古屋ノ男女ハ羨ヲ然リ最ナリト云ル
 ハ寧ロ可哀ト云フ又ツサバ眼元冷シク鼻

七月七日

奇絶妙ナル怪夢ヲ夢醒ノタルハ午前十時ナリ
余ハ徐カニ起テ出テ、先ツ所睡ヲ残シテ日記ヲ
認メ朝飯後手田ノ儀ヲナシタル辭ヲ以テ從
事ニ入時退キ四人連レテ先ツ縣廳ニ至リ、天守及
本願寺一覽、伝書ヲ得ニコトヲ乞フ、待フニ大凡
一時半ニテヤウヤウ塔明キテ四人ノ車ニ飛テ旧
城趾即チ鎮守所ニ至リ先ツ司令部ニ至リ觀
覽券ヲ受テ本丸ニ至リ番人ノ案内ニ由リ諸般觀覽
スルコトヲ得テ堀ハ尚祈教堂ハ堅牢民族ノ
花剛不ラズマシ覺シ其上ニ堅固ナル土塀アリ
銃口ヲ所クニ穿テハハ戰時ノ用意ト知ラル
ニシ、門ヲ經テ後前殿ニ至ル支度ヲ上レバ中
ニ召事ノ廊下左ノ方ヘテ最初ハ(1)虎ノ石ニシ

長二石、大橋アリ(9)ハ土俵ノ高ニテ 2'x2'ハ
(10)ハ土俵ノ高ニテ 2'x2'アリ (11)(12)(13)(14)
ハ上洛殿ノ三ノ石ニ一石上段ニシテ欄間ハ
花鳥ノ浮水アリ天井ハ格天井ニシテ上段ハ二重折
アリ格天井アリ針カコシハ急ク壁斗ノ開キニシテ
Monotomans、女衆アリ (15)ハ沐室 (16)ハ陽ド
書院 (17)ハ二ノ石 (18)ハ書上段アリ (19)(20)ハ
黒木書院トシテ始メテ粗栗ナリ其他ノ部屋多シ
虽一ニシテ見ハ必要モナシハコシテコソ切ナリ
タリ一休ニ建案ハ極テ精美ノ尽シタルモノニテ其
廣大ナルコト實ニ驚カベシ夫レコソ天守閣ニ登リタルガ
コソ天守ハ慶長十五年加藤清正カ徳川家康ノ命ヲ受
ケテ作ラセタルモノニテ石垣ノ高サ七間建物ノ高サ二十
五石即チ平地ヨリ三十二石 高ナリ頂ニ一對ノ櫓

大 24 X 18 尺 (2) 15 X 15 尺 (3) 18 X 18 尺 (4)
 襖・床一面 (3) 及 (4) の 障子 15 尺 大 十 丈 二
 18' X 18' + (5) の 表 障子 一 面 15 X 27
 1 大 障子 (6) 一 面 15 X 30' + (7)
 (8) の 一 面 27 X 27' + (9) の 土 障子
 一 面 障子 各 障子 障子 障子 障子 障子 障子 障子 障子 障子

水戸藩の御用外、全々外郭の通路の木材ハ
 旋盤ニ架シタル其大サ直径四尺ニ近キモノアリ
 第一層ニ登レバコノ十八間ニ二十間ノ大アリニ
 第二層ニシテ十八間ニ二十間ニ三層ハ十二間ニ十五間
 四層ハ九間ニ十一間ニ五層ハ七間ニ九間ナリ

東方の山にハ深山重疊の際 涯を知らず 突
つて絶景と爲すノ外ナレ 但レ此の地ヨリ 未嘗
ノ蠅多キハ ずいぜき 夕戸々ニ 蠅群ルコト 証
手足往人血ヲ吸フモノアリ ソノ代リハ 此ノ地ヨリ
以北ハ 全ク蚊ノ 居ルコトナレ 此ノ土人ハ 蚊帳ヲ
用フニシテ 蠅帳ヲ 用ユト云フ 余ハ (西出ナキ) 漆
ハ左様ニ 承知アレ 此ノ下ニ 口ト 虫甲ニシテ 妻板ナリ

ルモ致付ハ甚ク利益アルモノナリ可愛子ニシテ
トハ慕クモ申シタケル

午後十二時三十分同席ヨリ出立行ク大凡半里ニシテ
菅川ノ隈ニ出テ嗚呼ト日中三たびノ其トシテ

スルニ本菅川ナリ兩岸挽屋ノシテケルガ如ク示シ

●ツノ中腹ニ一條ノ通路ヲ開テ見下ニハ百餘ノ色
炭産ニエセルカニタ一歩ニ得ラハ五層ハ出ニ石

高ッ口元ヤツトシマツクル美人ハ稀ニテ却テ衰頹ニ
 シヤカニホシカレタル美人多キナリ
 同所ヲ去リテ四人ハ車ヲ飛バン更本願寺ニ到ルコ
 ノ色エハコロ更掛リテ又ハ又ハ單ニ掛町トモ
 内掛町トモエフ何格ナルヤ余ハ今考ハフ然ハス
 コ本願寺ハ何ノ年ニ成ルヤ不研究セザラシガ大
 寺ハ三百年以爲位ト考ヘラル其規模ノ宏大
 ルコトハ淺草寺ニ比シテ數層勝ルハ欠ルハ
 草寺ハ十八百四方ナルトモコレハ二十七百四方ナ
 淺草寺ハ一層ノ屋根ナルトモコレハ二層ナリ
 草寺ハ高サ十六間ニ充テガレタレハニ十二間
 ニ餘リシ没シヤ又其規模雄壯ナル全ク此
 比ニ孰ザルヤ中堂ニ疊アリ凡テ四百四十六
 枚ヲ納ル天井ノ高サ四間三尺、床ノ高ク地
 上ニ間ナリ宛飾ハ華靡ニ派ス至テ上層テ
 レハ往々煩雜ナル可ナキニ非ス門ノ構造
 モ更分ノ精巧ヲ尽シテ精巧ニ巧ニ巧ニ
 嫌アルニ至ル一休ニ之ヲ更都ノ東本願ニ比
 シテ其勝ハテ遠ニ數倍ニナラザル也
 同所ヲ去リテ歸途ニ途ニ途ニ大州ノ觀音ヲ一
 見スコトハ東都ノ淺草トモエフベキ地ニシテ平日
 莫ク商旅見セ物、カラク華アリ遊藝群集
 テ常ニ絶間ナシ堂ハ百年以爲傑造ニカ

構造裝飾共ニ見ルニ足ハモノナシ同所ヨリヤ
 西ニ當リテモガ屋アリモガハ可謂テゴク即
 ヤ来尺、パンボクナリ名古屋ニハ上等ハ遊廊
 ナシ上華ハ遊廊ハ熱田ニアリ拜喜ハ同所ニテ
 通フトカヤ
 名古屋ノ宗亮ニテソーデス子ト云フコトヲ、ジヤウ
 グナモト云フコトヲ来尺ノ、ソーダナシニ上スレ
 バ多ク似タル可アルヲ覺ユ。又語ヲ鏡ノ鏡音
 スルノ癖アリカキリケコラキヤキキモ、ハヒフヘ
 フヒビキヒヒト云フガ如シ。又言葉尾ニハト云
 フ言葉ヲ用ユ後令バ、内リヨリナサレト云フコトヲ
 オキーリスト云ヒ、ハイフヒヤト云ヒ、ナイフ
 云ト云フ。可笑キコトハ衣ハ物異ヒニ行キテ
 別ル件世事ニ「ヨ一ウ出ヤス」ト云フコレハ、ヨク

帰病後暫時休息シ沐浴ノ後日記ヲ認メ且
山下ノ船ハレドオルガシヲ調べ終ニ日暮ニ至ル
頃ハ河合ノ腹痛甚シク苦悶大ナラス固テ
急ニ使テ走リシメテ醫師ヲ呼ビテ若ク迎ヘ診
察セシタルニ彼ハ食中ヲ断テ甘菜ノ五
ヲ頓服セシ外ニ莫比ノ三ツヲ和ル糖一、〇
硝黄一、〇ニ和シ毎二時一服ヲ用ルレタリ
彼ノ医業ハ速ニ友カク養セヌ河合ハナホウ
リ共尙スルモカク再ニ腹運ヲ迎ヘ莫比ノ下
注入ヲ施サシニ終ニ其効ヲ養シテ得ハス
ヤト安眠セリ暫時ノ後彼ハ烈シク吐瀉セカ
コノ為メニ彼ノ病甚ヘ全ク治セリ余ハ例ノ
翻訳及日記ニ從テ十時四十分迄ニ就ク

七月八日

午前十時出テ七時出發人力車ノ飛ビ
テ木下街道ニ向フ秋琴橋ヲ跨リ東北ニトツテ
進ムニ驛陸ノ北ニ身ヲ研範寺投アリ一里ニ
テ市街ヲ離レルバ清水町アリ矢田川勝川ノ
兩川ヲ過ルバ勝川村アリコレヲ地勢ヨリ
高ク上野、手申屋、明知ノ諸村ヲ経テ内津村
ニ達ス村ノ東北ニ内津峠アリ池ノ傍ハ尾濃ノ田
畝ナリ峠ハ直ニ僅カニ三百メートルニ過ギスト
虽コレ實ニ木下路ニ出逢ヒタル第一ノ峠
ナリ峠ヲ下レハ多分見村アリコレヲ登飯ノ口
再ニ車ヲ飛ビテ東北進ムニ九景峠高ク岩面ニ積

粗悪汚穢突ニ云フ思ヒザルモノアリ其劇ト沐場
他ルキハ突人ヲシテ嘔吐ヲ催サシムルニ足ルナリ蓋
余等昨日秋琴樓上ニ優待ヲ受ケ今日俄カニ
ソノ柳村ニ入ル即チ又(其粗悪ヲ感スルナリ
沐後固扇ヲ揮テ唾ニ託ケバ一天俄カニ墨
ヲ流シ霹靂一声天柱ヲ碎キ地維ヲ壊カヌ
ハレ急雨驟然トシ盆ヲ傾タムカ女ルシ只コレヲ
山向ノ小天地暗々咫尺ヲ辨セズ已レシテ忽
然雨晴レ雲収マ雷更速ク去リ電光赤跡ヲ止
メズ只見ル満山ノ緑樹洗ッガ如ク鯨流ノ声
滾滾ハ更テ怒號トナリ蟬鳴ト蛙鳴ト相
和レテ声吟喧妙

福力橋：投箸ノ橋ハ村中少一ノ匠旅ナリ
余等今日七里ノ山路ヲ自行ニシルルサニ在
旁ノ變ヘズ山下ハ尤モ強壯ニシテモ連ナリ余ハ尤モ
遅ク河合ハ或ハ甚ク速ニ或ハ甚ク遅ニ山下ハ雲
四十日百歩行旅行シテ数百里ノ山川ヲ跋渉シ
クソ云ハバ其強壯ハ亦深ク怪クニ思フザルナリ

アル者ニ至テハ強ト教フルニ違フラス河水ノ清キト玉
 女ルク深キ所ハ深蓋教尤浅キ所ハ一瀉百尺ノ深景
 實ニ海内無双ナルベシ世人ハ本字川ノ泥ヲテ強クスルヲ
 以テコノ川ノ深景ヲ知ルモ未タ深山ノ内ニ入ルハアラス
 即チコノ深景ヲ知ル若孟シ鮮ニ笑行クト一里半ニテ
 内科兩子路町ニ達ス中村の夕陽員太田氏ニ逢フテ
 承意ハテ伐木所ヲ一見セテフ

スルモ甚ク學ニ余等ハ一少海濱
 ヲ上ルコト半里ニシテ官林ニ達スコト
 堪、楨及櫛子ノ五株ヲ以テシ
 伐ル蓋ニ古ハハコノ五木ハ人民
 外ヲ以テ余多ク樂式ニテ云フテ
 緻密ナリ故ニサクレルノ意ナリニ
 以テテ松ニ其後ナリコトノ類スル

余ハ日ヲモ從事ニ沐後晩食ヲ終リテ市街ヲ
 散歩シ足袋及脚半ヲ只幕フ又トランポ⁷ヲ置ハント
 テトランヂモ店ト云フ店ニ入リトランポ⁷アルトト云フ
 手ランポ⁷ハアクト表ノ表西洋ノカルタナリト云ハ
 バ西洋ノ手ランポ⁷モアクト表ヘシハ大笑トナリ
 帰宅後花合セテ等ニ十時迄ニ就テ

日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土
 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二

作レハモノアリ即チ彈カヲヒテ長大ナリシムルガ為ニ
 シテ又方向ヲ辨ゼシムルノ用ヲナス 工丈ハ伐木ニハ
 十人ヲ以テ一組トシ運搬ニハ十二人ヲ以テ一組トシ各
 組ノ頭アリテ今ハ伐木十組、運搬ニ十組
 ヲ用ニ而シテコノ可算ニ依リテ工丈四百四十
 名ニシテ一日ニ四度ノ食ヲツナレ一日ニ十四五俵俵
 ヲ食フト云フ 斫金ハ一人平均十丈位ニシテ食
 ハ官費ナリ然レモ直立樹々尺ノ地層ヲ等々ノ過
 割ノ汚穢ナリテコノ貨物ヲ得ルハ余等ヨリ悉クバ
 實ニ樹々バキモノナラス

伐木可ハる諸所ヨリ上ルツト強ト一里半有餘
 直立階面ヨリ四百五百尺ナリト云フ 工丈ハ斧ヲ以
 テテマツノ周圍ヲ伐リテコレヲ一方ニ倒セバ直ニツ
 ノ枝ヲ切リ其皮ヲ剝キ直ニ長サニ切斷ス 彼等ハ
 ツノ直径ト長サヲ測リテ尺ノ數ヲ撰ビコレニ
 檢印ヲ捺シコレヲ管ト名クル所短様ノ碎片
 ニ認メ別ニノ字ヲ材ニ刻スル官内者ノ頭字ニ
 シテ民材ト区別スルガ為ナリ又年号ノ符号ヲ刻ス
 モアリ材ニ成ル運搬工丈ニ一組ヲ寫シテ
 以テコレヲ山下ニ降ス 工丈ハ飛障ノ人ヲ以テモコ
 トスト云フ 亦皆山ノ人ニ以テクツ云フ 又ハ山ヨリ出
 ル最大材ハ直径ニ尺五寸長サ三十七尺位ナリト云
 フ而シテ其巨大ナルモノハ五俵材コト云フ

密カ官木ヲ伐リ去ルコトヲ得ベキモ其ノ斧ノ用ニ
 丁ノ声遠ク聞エテ斫ニ寄取ルニ便ナリナルヲ以
 テナリト云フ 伐ナル木ハコレヲサテ(蠶)ニテ谷
 ニ採スナリサテハ樹ノ以テ通ルベキ形ヲ伐リ
 山ノ針伐ニ依リテ之ヲ布アルモノナリ而シテ通
 宜ノ距離毎ニ止メテ置キコレヲ採リ去ル材

止メニニ置キテ一ツ門止メト
 云フ 中央ニ門アリコレヲ通シ
 材木ヲ一ノ次ノ次ノサテ
 ニ採スニテコレヲ止メト云フ
 下ヲ通シ材木ヲ次ノサテ
 送リシテ別ニ採リ去ルモノアリ
 亦サテノ止メルノ用ヲナス
 モハコレヲ枝樹、掛保等ヲ以テ

去レリコ也ハ●御村トハヌヘドモ京、名古冠ノ原
大ニ氣有サレ長遠ニ蒸弱ノ氣味ヲ早季ノ子一ツ
ニツテ尾ヲ一ツト云フ而シテ婦人ハ一般ニ色白
キ化直アツト山下ニ評レヌ。地味ハ墨鏡ナルヲ
草木ノ式ヲ而シテ山ハ殆ト全ニ赤土ヲ成ル但シ
赤土ノ下層ハ赤ノ石灰石ヲ此中大理石ノコノ固ノ
各地ニ産スル名物ナル知ルベシ

筑川峠以東ハ直路東北ニ向ヒ正面ニ惠那山ヲ
見ル山ハ濃信ノ国界ニ直立凡ソ一千五百ソ
トニアリ即チ赤ノ峯形山ヲ十餘ノ木子ノ岡
崎山ノ形稱取ツル直立一十百ノトハ斗
逆カノ北ニ御岳巍然トシテ群山ノ上ニ秀テ

全治スルコトヲ得タリ十時後ハ沈クコノ日行
程凡ソ十五里ナリ

七月九日

午前五時起キテ旅装ヲ潤フ中村氏ハ船ヲ脱
車ニ乗リ余等三人ハ輕裝ヲ歩コトシテ荷揚ハ
一人ノ老人夫ニ荷コラシメテ三人ノ出
立ハ下ノ河ヲ越テ之ヲ熟視スベシ
道路ハ岩石四圍屈レテ行路ハ場カズト最モ
三人笑テ語テ河ノ足達ハ三覺ハズ四百ノト
高クハ橋ヲ根峠(四)ヲ起ヘテ大井村ニ達ス
カニ北六搦ヲ要ル店アリ搦ノ由來ハ馬琴者作



コリ出下カレト云フニ
言テ甚ク多クト最今一
コノ地ノ言テハ一般ニシ
ノ國人ノ身象ヲ第マカケル
方以ハ近遠ニ故テ強
流滞ニ故テ言テモ流滞
滞弱ニ源因ハ余之ヲ
理上峻山岳ノ近キトテ
温熱ナルト其ニ大ニ源

代價一木一付 實價廿廿 年毎ナリトスフコシ
 東氣ニ出セバ 其價或ハ大円ニヒニ 又來ル無邊
 ニシテ生スル 天産物ナルコトシ 伐リ之ヲ 運搬スル
 費用ヲ以テ 終ノ價ヲ 算スモノナリ也
 毎年土用後 伐木ノ着手シ 沿岸以テ 之ヲ 採レバ
 直ニ 運搬ニ 従事シ 材ヲ 運搬シ 流シ 終ニ 本吾川
 へ 委シテ 濃由 御藏村 調場ニ 至リシコトハ 口
 シツ 筏ニ 阻リ 十九本ノ 以テ 一ノ 筏ニ 運ビ 一
 付ニ 人々ノ 管理シテ 本吾川 下ニ 指置ルコト 以下
 筏ニ 二十四束ニ 付 三人ノ 以テ 管理シ 最長 尾張ノ
 白鳥ノ 貯材場ニ 送ルコト 材ノ 運送ニ 細工シテ 之ヲ
 各地ニ 分送ス 阿寺ノ 御藏村 水戸 至ニ 十二里 計
 本ノ 五十日ニ シテ 岡ノ 陸區ス 而シテ 山中ノ 木ヲ
 へ 出スマデ 已ニ 二十余日ヲ 費スト云フ 而シテ 今ノ 冬
 昼夜 河中ニ 立テ 人民 薪取 マルヲ 傍グト云フ 冬
 同 暑寒ノ 際ハ 其 薪 難ニ 且シ 若ク ンヤ
 余ハ 始テ 孫子ノ 見聞シ 興イ 何ト 存シ 絶伐
 至リテ 伐木ノ 号 復ニ 見ニ 於テ 勇リ 登山ニ しか
 河合ノ 大ノ 窟 傍ニ 中 運ル 止マリ 今 等 三人ハ 九分 運
 テ 登ルニ 非テ 非テ 飢渴 必ニ 其 息ノ 衰ニ 付テ 得ザルニ
 但シ 余ハ 飽マデ 絶伐 至ル 勇氣ヲ 以テ 中 村ノ
 非テ 窟 傍ニ 孫子ニ へ 送リ 余ハ 勇リ 往リ 知リ 記
 必 公 費セシニ 一 同 八十一 年 一 卷 ヲ 記シ

七月十二日 (キタヨリ雨)

午 時 卯 時 起キ 七 時 出 発 中 村 氏 ノ 例 面 リ
 車 行 ナリ 余 等 ハ 例 々 口 勝 栗 毛 ニ 思ヒ 思ヒ 一 皆 漚
 ヲ 吐キ 散ラシタリ 然レ 血 氣 盛ナル 表 武者 三人ノ
 案ニ 合ヒナレバ 其 材 有ナル 指 置ル 吐キ 止ハ サル 思
 慮スル 茶 湯ニ 判 定ス 下ニ 得ベキ ナリ 午 時 十一 時
 半 後 堤 畔ニ 入ル 路 傍ニ 小 野ノ 池 あり 直 下 凡
 六 丈 奮 躍 跳 飛 石ニ 激シ 分レテ 路 條ト 双 合
 シ 本 吾 川ニ 入ル 十 奇 觀 十 瀧 覺 村 ハ ンバノ 名
 物 ナレバ コノ 時 行ハ 止マ 食ヒ タル 名 物ニ 甘 比 物
 ナリ 該 河ノ 水 行ハ 止マ 余ハ 酒 少ニ
 用テ 飲ミ 又 氣 力 衰レ タリ 余 等ハ コノ 一 丁 斗リ 距リ
 ル 水 手 伊 時ノ 浦 島 右 記ノ 古 跡ヲ 見 物セリ 傍ニ 一 丁
 フ 浦 島 右 記ノ 木 吾 川ニ 釣リ 得ル 故ニ 故ニ 一
 電ニ 乗リ 就 實ニ 至リト 今 浦 島ノ 業ハ 堂 アリ 昔
 釣 等ヲ 釣ル 竿ハ 古キ 竹ニ 太ク 腕 力 強シ 然レ 浦
 島ノ 人 皇ニ 二 代 雄 皇 天 皇ノ 臣ノ 人ニ 今 法
 一 大 兄 一 千 六 百 年 以 前 乃 コノ 釣 竿ハ 如ク 今 千
 六 百 年 以 前ニ 見ヘ ス ナリ 堂ノ 傍ニ 池 あり 浦 島ノ 池
 ニ 老 人 姿ヲ 見シ 夫ノ 池 大ク 五 六 坪 深サ 一 二 尺 計
 然レ 千 六 百 年 以 前 コノ 池 依 然ト シテ コノ 池 存 在ス
 キ ナリ 考フニ 實ニ 抱 腹ニ 堪ヘ ス 境 内ニ 尾 張
 大 池 又 手 植ノ 松ノ 有 栢 川ノ 宗ノ 手 植ノ 松モ あり

一方、絶岸直下ニ木亭川ニ既ニコハ柵ヲマツレタリ
 河流ハコト也迂曲シ橋四五間ニ過キス怪岩奇石
 相疊重セリ日コ柳子岩、日コ床岩、日象岩、日コカ
 岩、日コ釜岩、日コオレ岩、日姐岩、日扇凡岩、日
 コ豊岩等ナリ其位置ハ固ニ沈テコト見ルベシ柳
 子岩、上ニ浦島ガ玉手踊ヲ向キタレコトアリコト小
 室カ運テリ腰カ岩ハ浦島ガ釣ヲ整レシテナリト云
 雨シテコレヲ子孫傳ヒテカ寝覺ノ床ト云フナリ河川ハ
 其深キヲ測知スベカラズ即チ龍宮ニ通ストナリ
 傳ヒテコレハ浦島ハ丹後國水ノ江ニ釣テ龍宮ニ
 至ルアリ然レ今木亭ノ山中ニコト花跡ヲ見ル全
 其跡シカ候ナリ知ルニ若クナリ坐シテ兩視之。後
 人ノ作ル事トセバ余無何オカ深ク考ヘシ
 看食ノ後コト去リ上オケテ石ヲ木亭ノ棧ノ名所
 ヲ見ル棧ハ今全ツノ跡ヲ止メスト蜷曲シ特リク
 ル石垣ハ棧ノ礎ヲ遺想セシ古松河水ノ面ニ
 式ヲ示シ出テ遺ヲ浮ク棧ハ在ル所今舟渡レ
 アリ風景ノ佳絶ナル岩石奇絶ハ精シクハ固テ
 見テカ分一ツ悲像セシ棧ハ杖ヲ葛カケラコト組
 合セタルコトハ芭蕉翁ノ榮句ニヨリテ知ル

かけをしや命とからむりたこみつ

コハ河岸ノ不碑ニ刻レアルナリ。古レハノ書、詩、歌、ハ
 木亭ノ棧深リカトカ危キ木亭ノ老木ヲトカアル

以テ見レバ往古ハコト往來ハ木亭川ヲアテコトノ岸ニ
 越ヘタルモノ見ユルツ河川中ニ男女石アリ見レバ何
 クダラヌモノナリ午時三時半島原ニ着シ島原ニ
 投テ島ヲ木亭山中ニ一ノ名色ニテ戸路
 凡ク九百人口四ノ有全電信局アリ郵便局アリ料理
 家アリ百般ノ物一トシ備ハラザルハナレバ也
 ノ京橋ハヤ、北國ノ分子ヲ食ヒ、ナリト云フ後尾
 付ス、ソノダレノ女レシ然レモ平澤州ノ沈ス
 文ニ斐麗也ニテハ、ソノダレノイト云フノ間ナリ、孟
 濃村ニ迄キモカ。

葛屋ハ餘リ上幕、旅宿ニハアラザレモ余等ト通ルコト
 ヤ、浮切ナリ余等ハ沐浴、後、村郷及親友ニ茶
 飲ハ一暮ヲ憩リ且ツ日記ヲシテ日暮夜食ヲ喫ス
 コト候ル莫ナリ覺ヘテ食テ又モ日記ヲシテ終
 リテ四人馬鹿流シク女ノ九時半宿ニ付ク

上松ノ北ヨリ岳及駒ノ岳、兩名山ヲ見得ルコト
 然レモ今日雨天ナリ為メ駒ノ岳ハ僅カク見テコト
 ハレ岳ハ全ツノ影多クカケテ然レモ鳥尾峠ノ下
 ヲヨリノ岳ヲ見ルヲ得ル茶ハ、午ノ末々全ク失
 望セザルナリ、岳登山ハ七月十五日、此レハ九
 下旬、終ルコトコトニケ月間ハ木亭ノ旅宿ハ全ク
 保若クスタタケレ一日百名ハキニ連スルコトアリ
 云フ。コト也、此レカカ餅、ナリ餅及中茶、花漬也

命モ僕人ヲマ子ノ義漢ヲ購ヒシ又於六柳ヲ
モ購ハシガ地日ニユツク

國ハ朝日ニ當テ修徳ヲ美冷ナリカ日或
一面ニ霜降リ岳山ハ白雪降リ駒岳ニケレシ
雪ツクナリ而シテ各地ニテモ袷衣下衣ヲ要セシ
云フ所ニテハ氣候ニ変化ニ生ズルニ至ル未ダ事
無クハ

九月半程行ケテ山ノ下ニ直ニニ懸壁セシテ陣
ノ名ハ道ニトランフノ秘傳ヲ傳授シ墨ハナシ
考ヘ物等ヲ群同ヲカ遠ニ余トシテ金銀ト
未ダハ言ハレラナシ大ニ興ニ入りナニ
ヤヤ安眠スルヲ得ル

七月十三日

午前七時出發今日ハ四人共ニ車ヲ御ヒテ直ニ
葛原ニ至ル途中文ノ越ヘテ駅ノ傍ニ木子軍仲ノ墓
所アリ相將軍木子軍仲朝臣ノ墓提テ抗軍太
カタルノ行ハル毎ニ塔カケン墨色オボクナリ見
余ハ先ズ一揮ノ暗怒ヲ催シ潜然トシ涙ヲ浮メテ
追想ス七百年前義仲ノ深山ノ中ニ人ノ爲メ大兵ヲ率
テ平氏ヲ倒カシ慶救シ勢ヲ乘リテ終ニ之ヲ西海ニ追
ヒシ其功其軍異変ニ相將軍ノ名ニ耻ゾズ然レモ英
雄ノ末路全クス粟津野ノ露ニ消ヘ失マテハ刀名

英果ニ夢ノ真カチ今ノ青年等多ク浮薄懦弱ニ流シ
武勇ニ乏シ且シク一たび旭將軍墓ニ謁シテ自責
可ナシ今ノ軍ニ臨シテ銃砲一發目ヲ大將ヲ狙撃
スバ是レ然レバ鎧兜ニ身ヲカクテ四尺ハハ大木
カクテ打テ振リテ大將ト名乗リ合ヒ新ノ路ニ踏
テ取リ勝業ヲ見難シ。今ハ地雷火一發ニ軍ヲ
殺スバ然レバ全隊打ツルニ鉢巻ヲ坊主頭ニ巻付
ケニ十四貫七百二十目ノ六角ニ依ル銃鎧ヲ打テ
振リテ逃ル敵ノ腦髓ヲコナ徹塵ニ打テ碎クハ
難クハ見難シ。余ハ敢テコノ行ヲ爲スヲ欲セズ余
只ゾコノ勇カト胆カトヲ備ヘンヲ欲スバ余ハ古
尚ビ今ヲ誡ヘモノニ此ノ余ハ只コノ今ノ青年輩
勇力ニ乏シテ悲レカレバコノ木子路ノ勇今ト狂古ト其峻
隨難馬同ノ論ニ非ズ然レシ今人ト木子路ト
難所トス而シテ古人ハコノ木子路ヲ踏汚シ奮
突戰シタルコト何レヲ知ラザル然ラシハコノ
流ニ在テ生ラズ忘レバ

ガムベシヤ。
同所ニ種々乗走ル所ノ
義仲ノ馬渡ニ地アリ余ハ
コノ路カハコレ名勝古蹟
又タコレ車行ノ且ツ余レ獨
リ居ルニ能ハザレハ實ニ

4月1日 奥屋+夏マ
 ① 北山... 山... 山... 山... 山... 山...
 ② 山... 山... 山... 山... 山... 山...

コソ余ハ皆ノ旅ヲ女子ナリ
 野原ヨリ再ニ歩行セテ島嶼ヲ登ル (コレヨリ先キ同町
 ニテ花ヲ採リ購フ) 登リテ半里シテ池ノ傍ニ遊ス...
 茶店ヲ即メテ一時休息ス茶店ノ娘年十七名ハ
 於セイ御ハ似ス茶飲考夏ノ晴ノ夏人ナリ本ヲ致
 フ通ヘ人買ヒコトニ休息シテ之ヲ見ヘベシ傍ニ島嶼
 ナリ内ニ入レバ岳ノ社アリ由テ是ヲ峰ニ名付ケルモノ
 カコヨリ本ヲ岳及野々岳見ユル茶ハガ 岳ハ雲
 ニ掩ハレテ全ク見ヘズ野々岳モ池ノ傍ニ雲ニ包マレシハ
 余ノ尤モ遠慮トスヘシナリ

島嶼ハ直立凡ソ(区)九百ノトハ本ヲ川ノ千曲川ト
 水界ヲナシ茶店井ノ下ニコレ一里野原ノ下ニコレ半里ナリ
 ソ峰ハ思フニモルズ小シク又ル一塊ノ小山ニ似テ山
 重疊深山ノ奥景ヲ欠ケリ然レモ山下ノ眺望絶佳ニ

本ヲ川ハ一線ノ線ナリ
 ク道路ハ女岩曲リ山
 腹ヲ匍ク長蛇ニ似テ
 カル之冷風肥カコト
 暑氣ヲ拂ヒ極快楽ニ
 ナリ余ノ道中コノ絶景
 蓋シテ一往ニイ
 ナリ

1800

七月十四日

午前十時出發馬車ヲ飛テ北東北ニ向フ土地
 平垣ニシテ丘陵ナリ田圃連々連ナリ而シテ四面ハ
 峻ラズハ峻山高岳ヲ見テ其高ク直五五十尺ヨリハ
 九十尺而シテ其峰ニ高クモハ大蓮花山、立山、紫雲
 ノ三山ナリ乗鞍ハ松本町ニ入リテ又シテ谷ノ尾ニ三山
 共ニ雪ニ覆キ山骨ニ峰ニ似テテ立山ノ下ニテオモ山
 リトスナリ
 坊ノ二ノ名邑ニ
 町ノ東方一里半
 古跡トシテ有テ
 ト呼ビ而シテ其
 然ルニ土人ハ
 シナリ

今日ハ上田マテ
 悪キニヨリテコハ
 午飯ヲ終リ日
 夜合ニ十番ノ間
 且ツ地固ニ暑色
 片宿ニテ銀浦ヲ
 セリコレ蓋シ茶
 葉代ノ効絶無
 食後四人ノ市

コレヲ水雷路の歌ニハ終リタリ
 馬場峠下ハ一里ハ奈良井村ヲ打ハ戸割ニ百斗ノ
 奈良井川ニ沿フナホ下ルハ二里ニテ雙川駅アリナホ
 下ルハ二里ニテ本山駅アリヨコ長野へ通フ馬車アル
 ハ明朝馬車ヲ松本へ赴キハ分ノ上野へ行カレ
 日暮ニテ午後四時半本山駅ノたしまき屋へ投宿ス
 ルニコノ家ヲテキタノシテ大ニ全業ヲ周シセリ

旅後日記ノツケ
 夕食後ハソノル
 ガソノ弄ス山下
 唱歌ヲ學バンテ
 道慶寺ヲ振遊
 テ

11, 222
 ヲウナルヲ数千回
 ニシテ熱達スル能
 ハズ中村氏モ亦
 尚カ唱歌ヲ學
 ハントスルノ内心
 アリテ吾ノ中ニ
 凡文ヲ唱ヘテ皆
 ナリ

七月十五日

午前十時四時起リ五時松本ヲ出發シ直ニ北ニ向
 テ馬車ヲ走ラス行ク一里ニテ山峠アリ名ヲ立峠ト
 ス山ノ沿ヒ谷ニ直クテ五ノ里半而シテ又下ルハ里許
 抱頂リ新原ト云ヒ隱通アリツノ山ヲ觀音山ト云フ
 (即チ新田、小縣兩郡ノ郡界トナリ) 此道路抱テ
 テ險悪石粒乱散馬進リ能ハズ峠下レバサレ
 ク平地ナリ平地ナリ始マルト思ヘバ已ニ赤タ山路ニ
 カレソ余是レ抱テ信州ノ山地ナラズ知レ支レ信
 州ノ地勢タル天竜、木曾、犀川、千曲川、四ノ川ノ
 兩岸ニ大ニ平地アルニコレヲ其他ハ皆ナ山岳
 高峯松モ扇風ヲ立ツルカクナリ是故ニ一郡ヨリ
 他郡ニ行カント欲モハ川ヲ下ルハ此スレバ必ズ
 峠ヲ越ヘザルベカラス故ニ各郷自ラ風俗人情
 氣候氣流ヲ異ニスコレ先キ長野分限端(起)
 シ所以ナリ松本ヨリ長野ニ至ル間行路十六
 里而シテ其間ニエノ峠アリ日ノ立峠日ノ中峠
 日ノ馬場峠コレナリ而シテ馬場峠ヲ以テ峠アリ
 トス信濃越後ノ邊アリコレヨリ松本ヨリ長野ニ至ル
 順路ハ之ヲ旧道トシテ新田ニ出テ西シテ
 上田ヨリ浪車ニ乗リテ長野ニ赴クニ至リ
 立峠ニ次テ保福寺峠アリ燒々連曲山脈ヲ回
 リテ通リ松本上ルハ大凡ニ里而シテ下ルハ亦然

ト二里余コレ末ノ尖峯ニ比スルニ亦大ナル
 是ヲ見スト山下ハ橋リタリ山頂ヲ下リ行ク大尺ニ里
 半ニテ午曲川アリ橋鐵ヲ架ス橋ノ深ハ上
 田町ナリ上田ハ信州中ノ名邑ニシテ人口凡
 一万三千人相ノ繁華ハ松本ニ比シテ倍ニシ
 免ズトス上田ニテサシ休息シ午飯ヲ喫ス。
 余ハ今日ホド甚キ思ヒヲマセシト殆ドコレナシ
 大人数ノ馬車ニハ人ヲツコシテハ余等ハ身ヲ
 動かスベキ餘地全ク之レナキ一ナリ日光ヤツカ
 女ノ若君堪ヘ難キニナリ聯ト費トシテ疼痛
 ラ訴フルモ之ヲ治スル方ナキ三ナリ雖テ其レ
 余ヲ轡ヒ而カモ余ヲシテ安眠スルヲ得ザラレ
 シコレ身四ナリ然レモ亦ツノ中ニ多クノ身ヲ
 死ハス第一ノ案ハ保壽寺山頂ノ下ノ上田及ビ
 鳥帽子山、浅沼ノ一部ヲ見シト亦ニ午曲川ノ
 流トナリ去リテ午曲川ハ案外ニ細流ニテハ満
 足スルヲ能ハザリナリ三時三十分外發シ下リ淺
 沼ニテ長野ニ達スルハ雨ガハ峠立セル高山ヲ
 見一葦ノ流ハ午曲川ノ原ニ流ヒテ進シケルヲ俣
 下等切符ヲ中等ニ乗リ込メテ食ハス類シテ政
 二手ヅマフヤリ通シタルハ近頃ノ一大快事ナリナリ
 坂城、屋代、ニテコレヲ終ルヒタリ
 俣ノ有ルナル娘持山左手ニ見ユ而シテ戸隠山

ハ巍然トシテ北方ニ峙テ而シテ四阿山白根
 山ハ遠ク上野ノ界ノ限リ手田一帯展ケテ
 里午曲河ヲ亘リテ篠ノ井ニ至レハコレヨリハ
 有ルナル尤モ有ルナル河、中島ナリ東ニ東條
 山アリ北ニ丹波島アリ北ニ摩川ノ流レアリ
 追想ス越後国春日山城主上杉輝定ノ大
 將輝虎入道謙信ニ甲斐ノ英傑武田信玄ト
 ニハ激戦セシ今ノ田訃ハ昔ノ荒野ナリ今
 人家シアル町昔ハ勇士ノ屍ヲ曝セリ謙信
 ニ尺八寸ノ室刀ヲ夏カレテ昔クモ長蛇ヲ逸セ
 シタルハマノ河水ナリ山河ノ眺メハ昔モ今モ更
 ニカワラジカワリ果テシハ世ノ有様毎々ナガク
 昔日ノ豪壯勇カクハ今ニ歸ナリコノ激戦
 ソノ價直アル日本ノ古戰場ヲ一也午時ニ
 委シテ空ヲ徑過スルモノ比シテ皆コレナリ嗚
 呼余ニテ見テ長大息セリテ欲スルモ豈得ベ
 ケンヤ豈得ベケンヤ。松原常陸守曾テ大坂ノ
 激戦ヲ河、中島ニ比シテ見戲ニ類ストナマ
 田原坂、植木ノ小戦之ヲ大坂ノ役ニ比スレバ
 又コレ見戲ナリトシテ然ラハ則テ河、中島ノ
 大激戦ハ日本古今激戦ノ總大將軍略ノ
 規範ナリウシタルアルモノ豈空シク之ヲ見テ
 眼ヲ蒙マシテ可ナランヤ

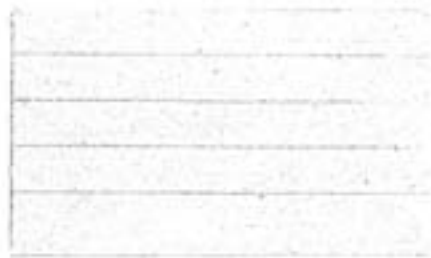
午後四時四十七分長野之着直ヤニ長老等
ニ集行危ス寺ハ長野北端ニアリ入口ヲ
仁門トス高サ一丈五尺ノ仁王アルコト
表ノ内ノ経ヲ内ニ入レハ兩側ニ虎アリツ
杖槍モ東ニ草ノ中店ノ女ルニ一々余ニシ
テ門アリ門ヲ過シバ本堂カ本堂ハ二重
屋根ニシテ間口十五間奥行二十九間三尺
凡リ日本寺ニシテ其女ルキ形ノモ盛シヲ
稀ナリ本寺ハ浄土ト天竺ニ派ニシテ其
今日マテ改築スルヲ十三回今日存スルモハ
應室永四年八月十三日ニ落成セルモノナリト云フ
本堂高サ十丈余ツノ高ノ精舎コトハ縁起ヲ
ラ見テ知ルベシ又奥殿下ニ胎内カブリテ
床ノ下ニ廊下アリテ見ルニ暗黒咫尺ヲ辨セ
コノ内ニ拖柴ヘ通スルベキ門アリコトニ鑑ラ下
リ信者ハコノ鑑ヲサグツ當テントテ熱心ニク
ルト云フ今日ハ四人手分ケテ之ヲサグツカ
山下ハ一サキニサグツアテタリ余等ハワ
表下存ラ
購ヒテ長野寺一ノ旅宿藤屋ヘ投宿ス藤屋
ハ余等三皆ノ上堂内ニ立テ居ルニ取掛セ
流後夕食ラ喫シ日記ヲツケテ後街ヲ
シ水ヲ飲ミコトテ四人力量ヲラベタル
は余ト集トハ三十貫ヲアゲ山下ニ十八貫中村

3分ト云フ。不林、大窪3部、衣部ト云降コレに次
云フ。切出し可ハニナア所アリト云フ。社長ハ中野寺
近照ト云フ熱心家ナカ余等ハ汚レシ時ハ不在
ナリ云々。余ハ丈ノリ採掘町ヘ行キ見レ小サ
十屋アリツノ中一人ハ丈ノ睡セリサ。登リテ再
小サ十屋ツ同ノ一人ハ丈ノ睡セリ同ノ人只二人
テホツト切出ト云フ其規模小ナニ仕掛ケ小ナ
実ニ余等三親セルニ是レリ午時二時ノ
日御真弓山ニ至テ寒水石、採掘見タリ真弓ハ
大田町、東方ニ里町尾、東南三里アリ、映車山
麓ニ待カ運テ山ニ上リ行キ行キバキ路ヲ失
ヒカハ余等ハ大ニ失望シ始メ真弓ハまらザレト
ヨソニモ、ヨソニモ愚痴ヲ云フ人モアリタリ山下ハ
用旋行路一人、農夫ヲ依リ案内セルコトニフ
ナキキ丘ヲ廻リ行クハ、運カ太平澤ノ見候
風色絶美ツ山嶽ニ積ル雪、コレ寒水石ノ踏傍
ニ横ル岩ハコレ寒水石ヲ踏イ布クモ、寒水石ヲ
而シテ運カ、^{（全支）}水ヲ切ハツ山麓ニ余等ツノ指ニ至
テ見ルニ二名ノエ丈ニテハ寒水石ヲ掘エシ其色純
白雪ヲ歌キ佳ク青色ノ混々アリエ丈、向ハバ
従者五名一名、日給六十貫ナリト云フ余等ハ
カ夏石^{（満山）}リ成ル見ラ、心中ニ造化ノカト
人智ノ妙ト感シ思ハヌ三歎ヲ僅セリ余等ハ

〆 着す時、十時三十分、ヤ摩川ヨリ、行進四里八町
村中第一、運路松代在、テ中食ヲ認レ、コノ家ハ
田舎ニモル、又モ電気呼號、柱ニツケタルハ生息氣
トカラ、昼食ノ菜ニ沢庵ヲツケタルハ面白カラヌアリ
余ハ静シタルトハ、肌ザレセコトニ、ニ時ヲ歸、休息ニ余
ハ父母ノ行ヘ送レ、ベキ物ヲ認ル、余ハ父母ノ余ヲ思
ハ、コトヲ慮ル、家ニ毎月通信シ、心ガケタルトモ、急
リガケナレハ、實ニ余ノ深ク自ラ戒ムル、行ナリ今日ハ
昨日ニ比スレバ、元氣モヨク、足ヲ癒レス、コレハ昨日来ノ
自行ニ慣レタルガ、為ナルカ、變、南余ノ、腕、肥ヘタルヲ以テ、

以後トシ百子川入ル山岸、又山々千五百
 伏高ヲ数百丈去林蒼蒼タルコトハ崇峻トシ佳景
 ナル標ナル実ニ余ヲシテ三歌セシムル程、義星ニ
 アラズ只山岳、險峻ト河水、奔流トハ余、
 一種、良雷僧大ナル真意ヲ旨ハタルヲ宜ニ哉
 才智義仲ノ僧大ナル山川、内ニ生シテ裕ノ僧大ナ
 ル志氣ヲ抱キテト方今オホ義仲ノ遺跡至ル所
 ニ之ヲ見ル之ヲ見ル毎ニ余ヲシテ懐日ノ情ニ堪ハ
 ザラズ
 山下ハサキニ時計ヲ曳捲ニ忘レ置キテ余ハ知ラ

葛之身塚跡、一泊入宇柳
一里五町東西一里ト物、
二萬四千市街ノ跡花、
当市ニ於テ見ルベシ、



記念為ノニ三魂、石の拾取外ニ山ハ富士
 山形、石の本ヲ归宿ニ就キタリ、懸テ待テ置ク
 ン、脱車ニ乗ラテ午後六時半當ニ歸リ、カ今日
 流シ出シタル汗ノ量ハ掛キ直ルニ一合ニ餘リ
 カバテ拭テ、後十時回而シテ水ヲ飲
 ヲ大凡ツ升ニ合五勺ヲ、沐浴後夕飯ヲ終リ休息
 ノ後、花合セテ試ニテスルニ、フガ不足ナルヲ
 察止トテ、空シク空着テ抱ヒテ、就テ時ニ午後
 九時半ヲ

キノ理ニ悲シシク食ハル、顔色ト音声トハマケテ、彼ノ
 眞水トノ關係ヲ及同セテ、眼ハ年ノ比ハ半ノ勢ニハ
 田舎ニモ似ズ、艶カナルヲ増シ。此、汝眞水、又、
 汝ハコノ良ク調マシヤ。
 宿ニ歸リテ、四人花カンタノ事、四人精神何カ加ハリ、時
 ノ理ニ覺ヘテ、急ニステ、シヨシテ、鈴ノ声、カラン、答テ
 カ、ツテ、尋テ、狼狽用章、復テ、シテ、演テ、來テ、直テ、鳴取
 伊勢崎、周定、大岡カ、四ノテ、シテ、シテ、午後八時
 桐生、義ス、日、城、防、守、社ニ、在、軍、の、監、石、該、館、愛
 氏、令、息、取、石、崎、剛ニ、部、氏、聘、セ、テ、シテ、林、師、ナ、リ、康、ノ
 剛ニ、部、ハ、一、年、外、至、院、講、技ニ、在、テ、余、ハ、此、年、報
 友ナルガ、信、ハ、洋、行、以來、ハ、大、目、知、造、レ、リ、余、ハ、今、報、得、テ
 信、ハ、シ、恩、ヒ、シ、カ、流、日、際、常、ニ、心、遣、テ、又、對、カ、ハ、日、朝、
 五時、寤、テ、左、野、ハ、部、氏、談、事、ナ、ル、ハ、シ、ト、オ、カ、ン、
 ト、花、合、セ、テ、シ、テ、十一時、應、テ、就、テ、花、合、ハ、余、效、後
 大、膳、判、リ、得、テ、妙、ナリ

七月十七日

田舎起五時七分、夜半、菜は佐野に運り
同所ヨリ二里半、陽の光、安蘇郡赤見村大字
出流原石堂、瑞峰町に至る、同村、石炭鑿區者
凡十八名、アノ余等、和田、尾花、須藤、三氏、
觀之、見タルナリ。

和田氏ノ鑿造所、穴ハ直ヤ石炭石ノ山腹、
之ヲ造リ石切ニ又四人アリテ、ガイマイン、ヲ炭石ヲ
碎ク、其大ク五六寸立方ヨリ一尺立方ニ造マコシ
竈、ツニ上ル、迄凡ソ百二十人ノ手間ヲ要スト云
和田氏ノ竈ハ二ツアリ、共ニ谷、燒ト云ヒテ、其形ハ
舟ノ如ク、入口狭、中央、廣ク山ノ傾斜ニ添ヒ
テ地アリ六尺ノ高サ、ツニ、穴ノ穿ラソフ
ニ畢ル、コレヲ粘土、ヲ入り入口ヨリ火ヲタケル
テ火氣、全部、ソノ側面、穴ヨリ、薪ヲ入ル、
ソ大ニ竈ハ、積ハ十五坪、小ナルハ六十五坪、
而シテ大ナルハ、十五日、石ナハ、十二三日、
ニ、全ク、焼キ、終ルナリ

石百坪ニ付、松薪
十六方、材ヲ用ユト云フ、
一材トハ、脚ホト、太ク
アル長サ一尺五寸、ホドノ
薪一本ヲ云フナリ

ワタキア之ヲヤク炭一孟、ツキ石六孟、割合ナリ
一人ノナカ、工支ハ一日ニ三十、石ヲ不存、得ル
一カ、ツ一孟ハ、即チ十ニ費日、ニ、一坪ハ、大抵
一孟、ナリト云フ、竈ヲ用ルニ、朝ト火ヲ点ス、
之ヲ出スコトヲ得、而シテ、炭、用ユル、キ、一日
ニ、三回、之ヲ取り出ス、得ルト云フ、竈ハ、深ク、一丈六
尺、徑六尺、ホド、ナリ、コト、比、ス、ハ、大、
毎、日、カ、レ、ツ、カ、ル、ヘ、ラ、セ、レ、フ、取、リ、出、ス、
得、ト、長、尾、
經、信、ト、云、キ、ト、大、意、ナ、リ、云、フ、
石炭ハ、大、粒、ホド、ナ、リ、由、テ、一、
日、千ニ百、五、十、費、生、不、便、
得、ル、ト、云、フ、天、草、産、炭、
ハ、宜、シ、カ、ラ、ズ、ト、云、フ

セ、ク、ナ、リ、ハ、毎、日、百、五、十、孟、
割、石、ヲ、入、ル、ベ、シ、然、レ、モ、
炭、灰、要、ナ、リ、ハ、僅、ク、百、
十、孟、入、ル、ハ、ナ、リ、
セ、ク、ナ、リ、入、口、ハ、中、
四、尺、位、ナ、リ、火、
大、キ、モ、亦、大、ナ、リ、
城、ナ、リ、ト、云、フ、
底、ニ、鉄、
錐、アリ、燒、キ、
終、ル、
後、
石、ヲ、取、
リ、出、ス、ナリ

外土ガニ機
 尾ラスト云フ
 和田的ハ名ナ
 一ツセリ一ツヲ
 一ツ有ス皆大雨
 丘ニテ庵出スル

林ハ浅灰色ノモノシテ最良トシ黒色ニシテ
 中ニテ赤色ノモノシテ尤モ悪ト云フ
 凡ソ穀所ノ製込所ハイブト規極極ノホニシテ
 且ツ拙劣ト遠又論スルニ是ハモノナシ葛生ト云フ
 地ニモ不次及セヨント製込所アリ佐野ノ町
 ニモセヨント製込所アリト云フ余等ハ佐野葛生
 ノ見ズニテ却テコノ出流原ニ来リハ余等ノ尤モ
 遺憾トスル所ナリ

十一時佐野ヘリヨリ再ヒ浪空ニ来リハ山ノ陸筑
 山ノ北旁ノ陸ヲ午時才五時七分水戸ニ着ス
 水戸ハ車ヲ接換シ次ニ岡東第三ノ大郡ニシテ人
 煙散々ノ繁華ニ道路甚ク廣ク其本街區必ク
 幅十路間ニ達ス蓋シコレ水戸候ハ天下ノ副都
 タリト云フ市ハ東西ニ部ハ分レテ東ヲ下市ト云
 ヒ人口九千五百西ヲ上市ト云ヒ人口一万四千并セ
 テ二万三千ノ人口アリ其大ク東西ニ部ニ達シ南北ハ
 十町ノ出入スル地ナリト見ルベキモハ藤田東海ノ

碑、好文亭、弘道館、松尾此等ナリト云フ市中央ニ
 旧城趾アリ今ハニ縣廳アリ即チ上下両市ナリト云フ。全
 等ハ上市ハ水戸第一ノ運頭松尾屋ノ設備ニ旧館ニ藤
 用化ガキキキ肥料割合比長高年環支氏東リ戻リ食好
 市街ノ繁華ニリ旧館後園名、旧村、田中ノ三氏ヘ端寄
 リ登リ見テ十時時：就ク

七月十八日

午前十時起キ七時時至ニ乗リテ北ニ向テ進發ス十時
 久慈郡太田町ニ着キ太田ハ久慈郡第一ノ名邑ニテ人口
 四千五百郡役所、警察署等ノ余等ハ左田町第一ノ旅
 店ニテ居テ投宿シ午飯ノ喫シテ直チ車ヲ借ヒ太田
 ノ北ニ里ハ町屋村ニ至リ同所ノ産出スル斑石ノ
 層源ヲ一見スコト斑石ト云フハ即チ大理石ノ一種ニテ
 黒白ノ斑紋アリ其形ニ從テ大ザ、小ザ、霜降ノ等ノ
 名ヲ有セリ而シテ良不工事ハ第斑石各社ナルモノアリ
 テ之ニ從事ス事務所ハ村ヲ去ルテ半里山ノ中腹ニアリ
 余等ハ機ガ如ク卷テ死シテコノ山ノ麓ニテ事務
 所ニ至ラントスル頃余ハ強ク精神亂ルセリトスルノ餘
 熱ノ感ニリリ固ク所ニヨリハコノ山ハ富士山ト云フニ由
 不詳ハ多ク碑等ハコレコレハ實際ニ見登リタリ又北海
 道ノ輪出スル由コレハ受テ取リ又言ハリ今又設布シ
 季兵隊ハ出ル由コレハ其高ハ極ツテサカレバハ

既次ハ九年、此ハ皇族内、甚深、付、多ク用材、
出せ、トカヤ、石、五、十、人、位、ヲ用、キ、ト、云、ハ、ド、モ、実
際、ハ、五、人、位、ト、見、度、ケ、ル、矢、日、ハ、相、換、ナ、ド、ヲ、用
セ、ル、所、不、用、カ、大、ニ、シ、三、寸、向、オ、十、位、ヲ、用、ト、フ。
旧、藩、主、墨、跡、ハ、五、ト、シ、コ、山、列、ト、ル、ト、フ。會、社、ハ、昨
年、四、月、一、日、ヲ、設、立、シ、ト、フ。一、年、採、出、材、ハ、三、千、五、百、材、
下、等、石、ヲ、混、ス、ル、ハ、六、千、材、位、ト、ナ、リ、ト、云、レ、ト、大
ナル、法、螺、ル、ベ、シ、一、日、一、材、五、人、ツ、ビ、テ、一、月、ニ
百、五、十、材、一、年、ニ、一、千、八、百、材、ト、レ、ト、休、日、ヲ、去、レ、バ
多、ク、一、千、三、百、材、ニ、出、ツ、ベ、カ、リ、ト、云、ス。又、運、搬、シ、法、ハ
之、ノ、水、戸、ニ、出、レ、水、戸、ノ、小、川、ト、云、フ、川、ニ、出、シ、次、
利、根、川、ニ、下、ル、ト、云、フ。一、材、ト、ハ、一、尺、五、寸、ヲ、ス、フ。
材、材、採、師、昨、年、出、張、シ、テ、ダ、ブ、ン、及、ヒ、暖、爐、等、
飾、物、不、ト、付、テ、息、見、テ、速、ベ、シ、ト、云、フ、然、レ、バ、材、材
氏、ハ、有、名、ホ、ラ、吹、キ、ト、云、フ、採、師、等、ヲ、シ、テ、ハ、レ、ト、云、フ、氣、色、ハ、
キ、カ、リ、ト、云、フ。旧、藩、主、墨、跡、ハ、五、ト、シ、コ、山、ト、ハ、人、民、之、ノ、採、
掘、カ、ル、葉、ニ、ル、モ、先、用、云、レ、ト、云、フ、ハ、コ、レ、ヲ、採、リ、ト、云、フ。
鑛、脈、ハ、三、里、深、ク、ト、云、フ。扇、石、ハ、未、ト、何、ニ、モ、用、カ、ズ、ト
云、フ。採、料、ハ、一、切、未、採、ニ、十、六、等、一、切、未、採、
未、採、ニ、十、八、等、二、切、未、採、ニ、十、等、二、切、未、採、ニ、十、七
等、三、切、未、採、ハ、四、等、ニ、十、ト、云、フ。山、ノ、小、
車、ト、云、フ、下、ノ、車、ト、云、フ、日、出、ル、所、ニ、テ、モ、大、藤、ナ、ド、ハ、一、人
ト、一、切、ヲ、出、ス、ト、云、フ、材、材、採、師、等、ノ、通、則、何、割、ヲ、採、

至、ル、時、正、ニ、正、午、ヲ、過、シ、平、橋、ハ、戸、部、凡、ク、五、百、許、リ
坊、撒、ル、一、小、獵、師、町、ニ、過、シ、其、最、長、ノ、匠、師、ト、云、フ
ス、ル、平、野、尾、ノ、如、キ、モ、旅、客、ハ、甚、ク、重、鬼、ノ、如、キ、船、頭
ニ、非、ザ、レ、バ、羅、刹、ノ、如、キ、獵、師、ノ、余、等、女、ノ、年、部、ノ、士
人、ハ、甚、ク、精、業、ト、云、フ、余、等、ハ、コ、ノ、平、野、ニ、投、薪、シ、
登、薪、ヲ、以、テ、沐、後、ノ、又、レ、ツ、コ、ノ、太、平、洋、ニ、吐、吐、
眺、メ、テ、東、ハ、荒、海、茫、沔、其、邊、ヲ、知、ル、ス、南、ニ、過、キ、
下、陸、犬、吠、崎、ヲ、過、シ、而、テ、北、西、ニ、テ、ハ、十、里、ノ、外
野、ヲ、見、ル、真、正、ノ、批、評、ヲ、下、シ、キ、手、ノ、泡、泉、ト、云、フ
ス、ベ、ク、ス、ト、云、フ、規、模、ノ、岩、大、ト、ハ、亦、深、ク、愛、ス、ベ、シ、ト、
加、之、海、風、涼、ヲ、送、リ、テ、三、伏、ノ、曉、霧、ニ、洗、フ、ガ、如、シ、
只、余、等、不、滿、カ、ル、ハ、コ、ノ、地、ノ、野、部、ニ、シ、テ、隣、里、ノ、澳
支、等、ノ、喧、噪、ハ、ト、市、街、ノ、汚、穢、極、キ、ト、云、フ、シ、カ、ル、ハ
余、等、ハ、始、メ、テ、コ、ノ、至、ル、中、口、ヲ、控、メ、テ、之、ヲ、買、リ、得、テ、大
洗、ニ、行、カ、ザ、レ、バ、梅、ヒ、テ、喋、ル、大、洗、ノ、夏、ヲ、採、薪、シ、
頭、ノ、余、等、ヲ、許、シ、ル、ヲ、怒、リ、ト、云、フ、人、等、ノ、慢、リ、ニ、信、ス
ヘ、カ、ラ、ザ、ル、ヲ、過、シ、果、シ、テ、去、テ、大、洗、ニ、行、カ、ト、ス、
至、リ、余、陳、ノ、日、ク、君、等、平、藤、ノ、島、ヲ、ア、ダ、シ、何、ト、云、フ、大、洗
ノ、夏、ノ、想像、ト、然、レ、バ、又、何、ク、大、洗、ノ、夏、果、等、ノ、思、フ、ガ
如、ク、ナ、ラ、ザ、レ、バ、知、ル、シ、カ、ル、之、大、洗、ノ、事、不、成、ク、去、テ、
單、身、切、場、ト、云、フ、乞、フ、サ、レ、思、フ、所、ア、レ、ト、集、メ、テ、往、ル、
ニ、コ、ノ、日、ヲ、地、ニ、送、ル、ヲ、決、シ、テ、余、ハ、画、同、及、ヒ
日、記、ヲ、採、リ、大、ニ、時、ヲ、費、セ、リ、

巴にシテハンドオレガシラ弄ス日暮夕飯ヲシテハ
 甚ク粗悪シテ口ニ通セス上等天長録デモアヨバ
 サニハ腹モ仁ベキガ夫レハ心ニマカセヌイハ
 余ハ不平ハコレニナラス家ノ取扱ヒノ甚ク無礼ナルコ
 コナリ余ハ不平ハ只コレノミナラス余等ハ姑ノ家ヲ
 ノ旅第當年橋ニ投宿スルノ見セシニ女ハ夕シテ
 旗ヲシテ年野庭ヘ希カシオコナリ年野庭ヨリ
 遠北北ヲ見レバ一大橋宛然トシテ海岸ノソベヒ
 一流ノ旗ノ百草橋ト筆太ニ記セルカヘンガシテ
 テ潮風ニ翻リ余等ハ之ヲ見テシキリニ不平ヲ尋
 シテ殆ト痛ハガ女ノナリシテ命ノ洗濯ハ姑ノ
 斗リ目算シテ室ハ命ヲ汚シテ来タルリカーコー成ル
 見ノ物相クモ皆氣ヲ入ラス何レツカカレツケテ不
 平ヲ可笑シ日暮ノ後山下ノ谷ノ中村ノ三式ノ立
 葉ノ圃ハ余ハ只コレヲ見物スルナリナリナリ時暮シテ

七月二十日 (午後五時頃小雨止)

午前五時起キ七時出發スコトナリ余ハ猛烈
 ナル腹痛感シ步行スルニ從テ痛ハ(カ)リテナ
 大地ヘ倒レシコト二三回ニ及ビタコト余
 昨夜及今朝ノ食物ノ粗悪ナルコト故ナリト思ヘ
 口惜クモ悲シクモ又腹立シテモツクコト共ニ生涯
 決シテ忘レマシテ常陸同久慈郡平磯町、常陸同

九時橋本跡屋へ出頭中村氏知事ニ面會シテ流
 業ヲ得ク正午宇都宮ノ發シニ十五分頃車ニ乗
 シ今市ニ行クソノハ秋終上ノ勾配ニシテ紙上
 鹿沼、文秋ノ三ノスターシコレアリ今市ヨリ日支マテハ
 今秋運轉ナリ八月一日ヨリ開業ト云フ但シコ
 ノハ傾斜ハ平常ノ大ナル多クハ済難ナク高陵
 ニ付スルヲ思フハ午後三時今市ニ着四時
 半日支ノ義見レバ余ガ往年來リトキトハ大
 區ノ人家モ地ノ底モ完備ニ立派ナル町トハツツ
 泉屋會車言ニ一先ツ廣付キ五時三人ニテ本町
 迎テ數多シ泰人家ノ原價ニ宿シタル家ハ
 ナキト尋テ余モコレト思フ家ハ甚ク西洋人
 ノ豫約ズレトナリコトハ日支カテハナド云フ
 立派ナル建築ナリテ東洋ノ待ツト氣無暗ハ
 高價ノ日本人ハ近寄リ難ク全ク西洋人ノ専有ス
 ル町トナリ居ルナリサレバ西洋人ハ日支ノ町ニ
 致慮シテ勢カ非常ニ強ク日本人ハ二三ノ支店ヲ
 除ク外ニ全ク勢カナキモノトナリ居ルコト余等
 昔ヲ覽屋ノ來タルモ思フキモノナリコト一先
 ツ家ノ街ヲ市街ヲ見廻シ西洋人ノ或ハ靴
 袋ニ或ハズボンノ斗リノ出ダシテ市中ヲ徘徊シ
 ヒマツブレニ店ヲ冷カシテアツアツ南人モ中ノマ
 目ハナクニ身位ノ危ナキト云フカク五時位ノ店

二十夜以上、云々然レ西洋人ニ中々直キルヲ巧者
ニテ大抵、通商、代價、二俵位ヲ買ヒ行ク様ナ
ク食、後、金等、教書、出カ、高、山、上、割、軍、
ル下宿庵へ赴キテ判スルニ、芝、コ、リ、一、ツ、次、ニ、又、
一軒、下宿庵、ノ、局、ヲ、コ、ハ、ハ、ル、コ、ノ、屋、ヲ、受、取、ト、ス、
故、先、コ、ノ、食、ヒ、家、ノ、女、房、ヲ、呼、ビ、下、宿、ノ、ト、ヲ、
判、ス、ル、ニ、コ、ノ、女、房、ハ、五、十、金、ノ、悪、妾、ニ、テ、金、等、ヲ、ア、マ、コ、
貧、乏、書、生、ト、見、下、ル、コ、ノ、家、ノ、吐、物、料、ニ、二、十、月、向、
八十、円、ヲ、西、洋、人、ニ、強、迫、セ、ル、ヲ、併、ニ、西、洋、人、ハ、来、
月、ニ、至、ラ、ザ、レ、バ、来、マ、ジ、ケ、レ、バ、ソ、レ、迄、ハ、ラ、賃、シ、モ、
コ、ノ、ガ、助、ヒ、モ、此、方、ト、ア、レ、バ、中、々、容易、デ、ナ、レ、……一、夕、月、
一、席、料、四、十、円、デ、ハ、中、々、日、本、人、ハ、一、席、ラ、レ、ヌ、ナ、ル、ベ、レ、。旅、
費、屋、デ、モ、中、々、ノ、物、入、ヲ、シ、リ、ト、乙、ニ、癩、ニ、サ、ツ、ル、文、
句、ヲ、言、ベ、同、底、ヲ、出、ル、カ、ハ、明日、モ、出、マ、ル、ト、探、
査、者、ヲ、見、察、ニ、コ、フ、ヲ、増、サ、余、等、。龍、瀝、山、ト、云、フ、丘、
ノ、上、昇、リ、テ、ハ、レ、バ、レ、教、場、ノ、茶、店、。怒、ヒ、テ、山、下、市、
街、ヲ、打、見、テ、ガ、ラ、ビ、一、ツ、ノ、傾、キ、ケ、テ、ガ、テ、宿、リ、ヨ、リ、
例、心、ヲ、オ、ル、ガ、ジ、ヲ、奏、マ、ル、。戸、外、人、ノ、群、集、ス、ル、様、
々、ノ、妙、町、ニ、至、レ、バ、拍、手、ス、ル、モ、ア、ツ、金、ハ、興、ニ、乗、
テ、ハ、レ、バ、レ、春、業、。十、時、半、落、ニ、就、ク、今、夜、ハ、一、心、
ノ、美、味、ヲ、用、ル、カ、為、ノ、精、神、爽、快、限、リ、快、ク、
熟、睡、セ、ル、夢、未、ク、就、ビ、モ、ア、ス、忽、チ、山、下、ガ、賊、
ト、叫、ブ、声、中、村、氏、ガ、周、章、タル、調、子、ニ、テ、ア、ナ、ヤ、ト、叫、

ッ声、ハ、破、ラ、レ、タ、リ、賊、ト、聞、コ、リ、余、等、ハ、起、キ、カ、ヘ、リ、テ、
様子、ヲ、周、リ、シ、モ、林、ノ、一、ツ、ノ、兩、戸、ノ、間、キ、ア、リ、テ、町、ヨ、リ、
一、人、ノ、盜、忍、ヒ、入、リ、吾、等、ノ、隣、ヲ、抵、テ、聲、ノ、切、リ、モ、体、
山、下、ヨ、ク、見、マ、レ、賊、ト、叫、ビ、テ、隣、ヲ、ガ、リ、ト、ア、リ、
ア、ケ、ル、ニ、賊、ハ、狼、狽、シ、テ、危、根、コ、ト、下、ニ、飛、テ、リ、性、
方、シ、ラ、ズ、逃、失、タル、由、山、下、ノ、目、ダ、テ、モ、賊、ヲ、見、ト、ガ、
ケ、レ、バ、コ、ソ、余、等、ハ、コ、ノ、危、難、ヲ、モ、逃、レ、ク、シ、實、ニ、旅、ニ、
油、切、ス、ベ、ク、ラ、ヌ、モ、ノ、切、民、強、ク、ト、ナ、ス、手、生、ト、
ヨ、リ、油、切、シ、テ、驚、ル、マ、ジ、キ、ナ、リ、

七月二十二日

午前七時、起、リ、日、記、ヲ、シ、ル、九、時、ヨ、リ、中、村、氏、ト、四、
人、逢、シ、ニ、テ、日、支、へ、赴、キ、社、務、所、へ、赴、キ、明日、ヨ、リ、
毎、日、寄、出、ニ、来、レ、バ、レ、バ、觀、望、房、ヲ、用、ト、シ、テ、旅、費、
出、入、ヲ、行、ケ、ル、ト、云、フ、。町、役、場、ノ、通、告、ア、レ、
コ、ト、ナ、レ、バ、一、裁、ニ、モ、不、許、シ、ヨ、リ、然、レ、ハ、大、阪、院、殿、
ノ、方、ハ、未、ダ、通、告、ナ、シ、ト、云、フ、ヨ、リ、中、村、氏、ハ、日、支、寄、
出、ニ、車、ヲ、飛、シ、町、役、場、へ、赴、ケ、ル、余、等、三、人、ハ、中、村、
氏、ノ、如、ク、待、ワ、周、ラ、(教、場、ニ、カ、同、團、ハ、凡、ク、外、
國、人、ノ、中、ハ、一、層、セ、フ、ナ、レ、辰、ル、モ、モ、ア、ツ、シ、リ、余、等、ハ、
一、人、ノ、外、國、人、ノ、餘、客、ヲ、送、ヒ、カ、シ、見、テ、之、ニ、免、ク、
カ、ク、見、ル、。外、國、人、見、。英、歐、ノ、一、ツ、中、々、ホ、ル、ホ、ル、
ビ、ヒ、カ、ス、一、人、ノ、女、見、ニ、年、ヲ、向、ヘ、バ、七、歳、ナ、リ、

云フ今一人ノ年五内ハ二歳半ト云フ君ニ日中ノ
 十バセツト云フト向ハナシ何時コヘ来リヤレ
 向ハバヤノ土曜日ナル故九日以當ツト云ヘシム
 モ感心ナリ然ラ中村氏ノ家ヲ至リ増明ナリ
 今等ハ是ヲ大猷院トシテ至リ大猷院マデ
 コマクト見互ニ批評ナリ夫レノ東照宮ノ至
 リテ詳細ノ見物セリ今兩ツノ比較シテ云ハシ
 東照宮ノ至リテ一ノ品格アツ陽明門ノ如キハ
 白塗ニ原木ノ浮キヲ付シテハガ艶麗ニ流シテ
 所部ノ風韻アリ様殿ノ様天ノ様様ハ龍
 モトモ出来ナリ之ニ及ビ大猷院ハハ華美ニ流
 シ艶麗ニ過キハガ女ノ品格ヤナキヲ覺エ
 蓋シ東照宮ノ建築ハ徳川三代將軍ノ時ニ成リ
 天下太平ノ外最モ武ノ志ニ依リ其建築モ
 亦威然トシテ氣格アツ表シ大猷院ノ建築ハ
 承應三年ニシテコノ時天下太平ナル人心ノウケ
 浮薄ナルトモ依リ其建築モ亦ハ艶麗ナリト覺
 然レ細工ノ精巧ハ大猷院部ト優レト云フ
 得ベキナリ戸ノ様様、柱ノ彫刻、ナリトハソノ
 取捨セテ一カ注意シテ見ハ見ハ精巧ノ
 故アナル来リ余ヲ深ク感動セリコノ至リ
 唐草ノ彫刻スルハ其地味無味ニシテ狂々
 非常ニ高雅ナルモ、アトモ大猷院中甚ク甜意

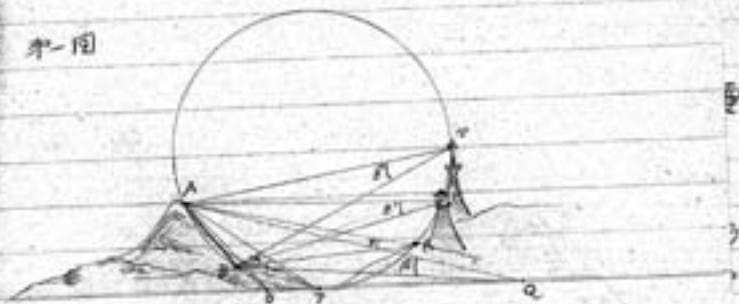
ナレバ、アノ榮明セリ然レハ東照宮ニハ之ヲ
 得ナリナリ正午中村氏ハ余等ヲ日暮ホタル
 招待シ午餐ヲ餐畢セリ四時半ノ時ノ時
 終リテ余等ハ泉尾ノ立テ退キ後セ久遠ノ
 フモハ、暮ニ下宿スコノ家ニ来リテ見ルニ四時
 明クハナレコト戸ノ扉ノナリ大ノ家ニ夫婦ナ
 余等トハ度ハナレバ外出スルニモ不都合ナ
 バルト云人批流レノ家ノ立テ退カトスニ
 ハレト稱慶シ是レハ是ノ外ノ精麗ニ採
 タ柄ノ如クハコノ湯在スルニ一決シテ余等
 ハ下宿ナリテ登リコノ屋ノ外ニシテ入リ
 市街ヲ觀望シ色々買物ナリセリ帰宿後
 余ハ三通ノ手紙七通ノハガキヲ書キテ一
 夜ヲ終ル

七月二十三日 (午後小雨)

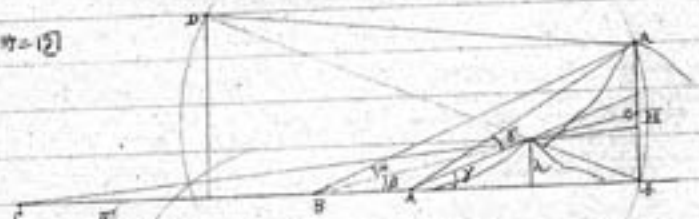
午前五時四十分起テ出テ今日ハ至リ周遊
 ナリ任レバ自然ト湯ニ入リテ朝飯ヲ
 シタ、九時家ノ出テ是ヲ大猷院ニ至リ向
 向及奥殿ノ様様ヲ寫シテモ、偶々余ノ人
 下條宮一節氏其友人山ノ某氏ト共ニ入リ来リ
 下條氏ハ米俵以下條時雄氏ノ長子ニシテ并
 工等ニ受接ニ入リテ建築等ノ修メ所ナリ

三幸への氏ハ今朝の以テ当地に籠り余の意ハ
 コレに至らん由ヲ由テ把握ヘテ全ノ期ニ至ラズニ
 突發シ催スコト由中野氏ノ意ニ至ルハ余ハ行キ
 三人連シテ氏ノ意ニ從ハ早出トシテ去ク
 余等ハ大ニ失望シ寫セニ行カトハ思ヒシカガレ
 小雨モ降り出シタルハ第一山下ノ整度ハ何れ
 ハ行リ出テ行キタリ 軀ヲ下條氏ノハ早業 靴
 来リテ從テ始ルハ余ハ氏ノ持テ来ル地
 命難ク思フカテ之ヲ後ニ得ル可基ク多ク
 十五畝ハ行テ余全騰ヲ得タリ 後リテ五ノ時
 行テ僅クシテ十時申渡ニ到リ

第一回



第二回



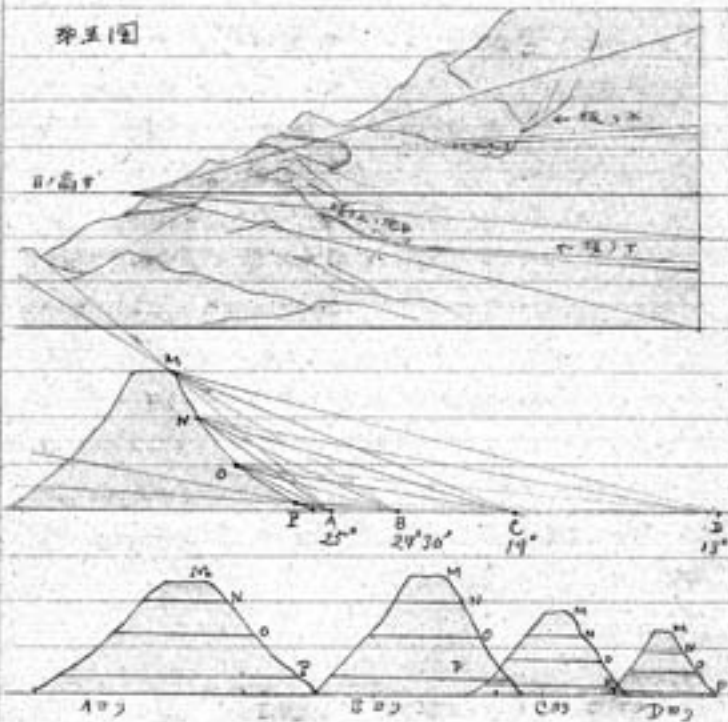
第三回



第四回



第五圖



以上第六圖

以上六圖 = 此乃余、果お山、外觀、生スル形状ノ
 変化ヲ説明セリト候ズルナリナキ詳細、理論、或ルキ
 ハ他日別ニ一節、論旨、以テ後、訂正、訂正、訂正、訂正、
 是レ以テ、以テ、備忘、トナストス

七月二十四日 (終日雨)

午前十時起き出テ見ルニ雨瀟々トシテ煙
 雲深ク立テ菴ノ市街スラモ見分ケ難カリ余
 幸々今日ハ寫生ニ出カルノ勇氣ナク倦ニ宿
 屋ニ歸ルニ決意セリ余ハ此ノ日記ヲ
 題ハ次ニサレシ觀感、徑子シ次ニ大衆推中
 氏ノ著作ニカニ日支要觀ノ讀ムニ其文字ノ
 輕好ニテ洒落ナル艶美ニテ流暢ナル其記
 事ノ詳細ニテ煩雜ナク天晴ノ文學家トシ
 テ可ナリ彼ハ多ク著書ヲ公ニシ文學世界ニ
 頗ル其名ヲ知ラセタル人ナリ余ハ彼ノ記事ヲ讀
 身自ラ日光ノ勝地ニ接スル思アリ瀑布ノ記
 讀ム中ハ忽然トシテ日暮、瀑布アリ汪怒沸騰
 声應々トシテ耳ニアリ山岳ノ記ヲ讀ム中ハ俄
 然トシテ日暮、山岳アリ巍然ナル其姿森々
 其自瞭然トシテ眼ニアリ嗚呼大表ノ文筆ス
 ルニ何リ斯ク巧ナルヤ嗚呼余ノ想像ヲ逞
 ルホ一ニ何リ斯ク甚シキ日支要觀已ニ讀
 畢ヲ復テ義學ノ後ニ周知到街ニ死テ多
 得ル可アリ余ハ實ニ才陰ヲ惜ヒモノナク
 故ニ迭次其筆ヲ空シク時ヲ消費スル
 好マザルナリ而シテ用固ノ情ハ常、コノ
 津ヲ妨害セントシテ止マズ余モ亦了強テ之

新々勝つろ廻らん花ハザルハ蓋し浮世ノ通
 義ナルニ
 山下阿久ハコノ時午睡セルガ昼食ノ後・共
 ニ起キ出テ夕ノ午後二時七下條山中ノ二氏
 来リテ控洗トルヲ控洗百出甚尽ル可丁ノ
 矢ハラス直キ・晝毎・至リ地ヲ夜ニ及ブ即チ
 死カルトテ戦ハシムテ十五番午後十一時
 寢ニ就ク

七月二十五日(終日雨)

午前七時起き八時家ヲ出テ寫生ニ赴ク
 (但し日光ノ所運集ノ記載ハ果ス)正午ニテ熱
 心ニ寫生ニ従フスレモ思ヒ外ハカドラス
 此ヨリ田中苗吉卿氏ヨリ書状来ル余ハ始
 メテコト知人ノ御書ニ接シツカレクモ懐シクモ
 アツレ明日ハ固元ヨリ来ルナラシカ運ケテ明後日
 ハ来ルナラン事ヲ立テ出テヨリ己ノコトニ十
 日昨日今日ト思ヒシモ鍾ヲ早キ八月日ナリノ
 向父母足ヲ知ル人々ハ如何ニ看ニタルナ
 ラン哉レハ異変モナカリシヤナド受ニ角ノ思ヒ
 クワラウハ旅路ノ習ヒナルベレ蒼色キヨリ雨

但く烈シク今日モ黎明ト定メ下條山中ノ
 雨氏ト五人ニテ控洗ヲ始メ死合ニ十五番ヲ
 戦ハシテ直キニ日暮ニ至レリ夜ニ入りテ控洗
 但く興ニ入り突ヒドヨキテ九時ニ至ルニ及
 余ハ日ヲ見ルニシテ終リテ寢ニ就ク
 三代將軍ノ内廟ノ入口・仁王門アリ内ニ入
 レバ水戸侯ヨリ獻物セル手水所アリ十二女ノ
 花剛玄ノ柱アリ殿ノ裏觀ナリ夫レリ 門
 夜又門ヲ控テ 門内中ニ入レバ持殿アリ
 ソノ次ニ合ヒノ間アリソノ次ニ奥殿アリ余ノ宮見
 スル所ハコト三殿ノ構造及ヒ掃帚飾ナリコト
 ニツノ慶フベキヲ觀覽人ノ指モテ金ヌリノ柱ヲ
 コスルガめソニ金箔多クハゲ落サテ朱塗ノ地ヲ
 アラハセルコト・廊下ニ蝸蟻ノ糞汁一面ニ
 テ汚レタル斑點ノ殘ヌコトヲ世シテコト廊下ヘ
 通常ノ持殿人ノ決テ之ヲ通サズ余等ハ幸ニ此所
 コリノ足カアバ自在ニ出入スルハ何ヨリ幸ナリトス
 ベシ

七月二十六日 (終日雨)

一昨日以来、大雨に今日、夏に晴、夕に只晴、
天に見て能ハザル、ミナシセ、雨に起、出、
バ余、親友、岡村、江原、新保、三氏、ヨリ、
来、急、披、見、心、岡村氏、例、能、熊、考、
振、ヒ、推、撰、書、綴、リ、中、血、量、友、情、
情、ト、有、ミ、シ、バ、余、思、ハ、欣、然、ト、シ、喜、ビ、
顔、中、一、種、無、量、感、概、ヲ、示、セ、ル、ナ、リ、
旅、中、愛、
ノ、感、ハ、ハ、酒、ア、ラ、ズ、也、ア、ラ、ズ、コ、ト、
知、ル、人、
ヨリ、音、信、ヲ、況、ハ、カ、コ、ハ、亦、十、年、以、来、
旧、友、ヲ、逢、
莫、モ、常、ナ、ザ、ル、交、ナ、リ、
抱、テ、オ、チ、江、原、氏、
例、勁、
剛、突、ハ、タ、ル、勾、
筆、滑、筆、
又、ハ、新、保、氏、
正、直、
篤、実、
ノ、口、調、
ヲ、用、テ、
何、レ、モ、余、
ハ、心、
ヲ、
深、
ク、
満、
足、
セ、
リ、
シ、
リ、
朝、
飯、
後、
下、
條、
氏、
余、
中、
禪、
司、
行、
ノ、
勸、
ム、
蓋、
シ、
下、
條、
山、
中、
雨、
氏、
ハ、
日、
月、
日、
来、
ニ、
リ、
付、
テ、
ガ、
ル、
ベ、
カ、
ラ、
ザ、
ル、
ヲ、
以、
テ、
ナ、
リ、
余、
ハ、
先、
ニ、
岡、
村、
氏、
書、
簡、
ニ、
由、
テ、
名、
勝、
巡、
遊、
ノ、
意、
ヲ、
起、
シ、
今、
又、
下、
條、
氏、
言、
由、
テ、
遊、
意、
但、
ク、
禁、
ミ、
難、
ク、
思、
ヒ、
立、
ッ、
日、
ヲ、
決、
定、
シ、
テ、
終、
ニ、
山、
中、
雨、
氏、
ト、
中、
禪、
寺、
ニ、
赴、
ク、
テ、
決、
ス、
ト、
言、
ハ、
山、
下、
ニ、
モ、
日、
サ、
リ、
勤、
メ、
タ、
ル、
氏、
今、
日、
ハ、
乃、
雲、
ノ、
又、
モ、
ヤ、
ナ、
雨、
降、
リ、
出、
ル、
山、
口、
ハ、
急、
ク、
雪、
ト、
ナ、
リ、
タ、
レ、
バ、
兩、
人、
ハ、
心、
進、
マ、
ス、
テ、
テ、
辯、
湖、
ノ、
例、
ノ、
通、
リ、
習、
志、
ニ、
出、
カ、
タ、
リ、
余、
ハ、
寫、
志、
後、
心、
ヲ、
思、

ハザルニ狀、
グ、
レ、
ニ、
名、
勝、
巡、
遊、
ハ、
ル、
ニ、
代、
ヘ、
ラ、
レ、
ズ、
余、
旧、
友、
ニ、
來、
ル、
寫、
志、
ノ、
分、
ニ、
ノ、
点、
ト、
シ、
考、
ヘ、
タ、
リ、
余、
ハ、
日、
先、
ノ、
名、
勝、
ヲ、
採、
リ、
之、
ヲ、
記、
載、
シ、
之、
ヲ、
撰、
寫、
ス、
ル、
ヲ、
以、
テ、
オ、
ノ、
要、
事、
ト、
考、
ヘ、
ル、
ナ、
リ、
余、
ハ、
以、
テ、
為、
ラ、
テ、
一、
日、
曉、
陰、
ヲ、
愛、
ヤ、
レ、
テ、
鉢、
取、
ト、
カ、
花、
取、
ト、
カ、
小、
ナ、
キ、
一、
仕、
事、
ヲ、
為、
ス、
ハ、
大、
ニ、
面白、
ク、
ラ、
ス、
同、
一、
日、
ノ、
費、
ス、
ル、
バ、
コ、
レ、
ヲ、
以、
テ、
名、
山、
大、
川、
ヲ、
見、
テ、
高、
尚、
優、
美、
ノ、
心、
ヲ、
養、
成、
ス、
ニ、
用、
キ、
ル、
ニ、
如、
カ、
ズ、
況、
シ、
又、
一、
ノ、
殿、
取、
一、
ノ、
花、
取、
ノ、
如、
キ、
ハ、
余、
レ、
一、
腕、
ヲ、
奮、
ハ、
バ、
立、
テ、
之、
ヲ、
作、
ル、
ベ、
シ、
一、
ノ、
撰、
採、
余、
レ、
能、
ク、
余、
ノ、
意、
匠、
ヲ、
以、
テ、
立、
テ、
之、
ヲ、
形、
ル、
ベ、
シ、
招、
ク、
名、
山、
大、
川、
瀑布、
ノ、
如、
キ、
ハ、
余、
終、
ニ、
余、
ノ、
意、
匠、
ヲ、
以、
テ、
立、
テ、
之、
ヲ、
作、
ル、
能、
ハ、
ズ、
他、
ナ、
リ、
撰、
採、
ハ、
人、
ノ、
意、
匠、
ヲ、
以、
テ、
作、
ル、
為、
ス、
ル、
可、
高、
尚、
ト、
優、
美、
ト、
虽、
限、
ナ、
キ、
能、
ハ、
ズ、
表、
シ、
テ、
名、
山、
大、
川、
瀑布、
岩、
花、
ノ、
如、
キ、
ハ、
天、
工、
ナ、
リ、
人、
工、
ノ、
意、
匠、
ヲ、
以、
テ、
之、
ニ、
擬、
ス、
ル、
鉢、
取、
ハ、
ザ、
ル、
可、
シ、
多、
ク、
笑、
況、
シ、
又、
日、
先、
ノ、
名、
勝、
ノ、
寫、
ル、
日、
本、
オ、
ト、
ス、
テ、
區、
区、
ニ、
ア、
ラ、
ザ、
ル、
ニ、
於、
テ、
オ、
ヤ、
オ、
ヤ、
……。
午、
前、
九、
時、
三、
人、
輕、
裝、
家、
ヲ、
登、
ス、
先、
リ、
鉢、
取、
ノ、
可、
ク、
過、
ク、
本、
町、
ニ、
至、
リ、
故、
道、
ニ、
旧、
道、
ヲ、
取、
ル、
新、
道、
ハ、
山、
ヲ、
登、
リ、
河、
ヲ、
埋、
テ、
天、
然、
ノ、
便、
道、
ヲ、
撰、
シ、
旧、
道、
ハ、
山、
ニ、
倚、
リ、
テ、
泥、
ニ、
天、
然、
ノ、
便、
道、
ヲ、
失、
ハ、
ザ、
ル、
ヲ、
以、
テ、
ナ、
リ、
行、
ク、
一、
里、
ニ、
シ、
テ、
標、
杭、
ヲ、
以、
テ、

回り右裏見滝通と余等即ち右路を取リテ進
一大曠原。至ル大直木子原。一部ナランカ思
此案内花ナリテ之ヲ知ルル由ナレ行クナリ
余レテ往路迂回シ一溪流。沿ヒ右岸。上。通ス
急ナレテ溪流。對岸。岩不組ヲ一。飛泉
ナルヲ見ル(其狀。由テ毒澗ト云フ)ヤ。奇觀。奇
別。智。是レモ。ナシ由テ四五點。自テ行クナリ
町ニテ。一軒。茶屋アリ。茶屋。ヨリ。往路。倏然。急峻
ナリ。岩石。崩。限。向テ。霧。ハ。八町。見下。ヤ。バ。溪流。百
尺。下。奔馳。シ。或ハ。深淵。ノ。作。テ。潭。ヲ。成。ス
淺瀬。ノ。作。テ。怒。涛。声。雷。如。ク。然。テ。怪。岩。下。ニ。柳。ナ
サ。シ。樹。木。上。ニ。掩。ヒ。暗。ク。洞。ノ。ナ。リ。其。出
處。ナル。實。ニ。仙。境。ニ。近。ク。思。ヒ。テ。已。ニ。テ。溪流
沿テ。對岸。ニ。進。ム。バ。一。茶。店。アリ。即チ。手。塚。氏。ノ。設
ル。町。ノ。茶。店。ニ。直。チ。瀑。臺。眺。テ。平坦。ナル。岩。石
上。ニ。立。テ。眺。ル。有。名。ナル。泉。見。滝。ハ。十。步。内。懸。ル
ナリ。只。見。ル。一。條。飛。泉。珍。奇。當。如。ク。直。下。ス。テ。六
丈。幅。五。尺。可。然。ル。懸。崖。下。ニ。懸。レ。テ。滑。ル。岩
石。ヲ。攀。テ。テ。岩。背。後。ニ。出。ヅ。ル。細。徑。アリ。余。等。廢。テ
先。テ。之。ヲ。踏。シ。行。ク。バ。路。傍。ヨリ。一。大。瀑。流。岩。石。ニ。沿
テ。後。下。リ。水。泡。飛。散。シ。衣。ヲ。濡。ス。行。ク。ナリ。十。步
岩。石。直。チ。頭。上。ニ。懸。リ。然。レ。モ。洞。中。ノ。行。ク。カ。レ
レ。已。ニ。テ。瀑布。ノ。背後。ニ。至。ル。バ。水。勢。猛。然。ト。テ。直

洞。碎。テ。面。ト。ナリ。霧。ト。ナル。恰。モ。煙。ノ。舞。ヒ。下
ル。如。ク。ホ。一。滴。ノ。水。ニ。就。テ。懸。現。ス。ル。水。滴。已。ニ。下
ル。ナリ。十。百。ナリ。バ。即チ。分。リ。テ。數。滴。ト。ナリ。重。キ。ハ。先。下
リ。輕。キ。ハ。後。下。ル。如。ク。後。ル。モ。ハ。即チ。下。リ。細
粉。ト。ナル。雲。霧。ノ。是。レ。以。テ。一。滴。ノ。水。ハ。粒。ト。懸
星。ノ。如。ク。又。煙。火。ノ。球。ノ。如。ク。飛。騰。シ。尾。ヲ。残
シ。直。下。ス。ル。已。ニ。下。リ。三。四。十。間。ニ。至。ル。バ。頭。モ
亦。浸。ヘ。テ。霧。ト。ナリ。量。ノ。以。テ。其。末。ニ。托。テ。更。ニ。奔。馳
猛。進。ノ。勢。ヲ。只。騰。騰。ノ。煙。雲。ニ。終。ル。觀。ア。リ。ト
云。其。實。ハ。ナリ。岩。石。ノ。壁。ナリ。盤。石。ノ。挫。カ。カ。リ。蓋。シ。洞
洞。岩。石。ノ。色。頗。ル。翠。美。ナル。以。テ。瀑布。ノ。華。嚴。名。ヲ
通。ル。モ。ナリ。余。等。ハ。茶。店。下。リ。テ。百。步。所。ニ。進
ミ。樹。ニ。依。リ。岩。ニ。ス。カ。テ。碛。現。ス。ル。テ。好。刻。一。尋。ノ
白。雲。特。ニ。往。來。シ。テ。瀑布。ヲ。蔽。フ。亦。一。奇。觀。ナリ。年
ホ。シ。雪。生。セン。テ。務。ハ。カ。ド。モ。時。有。ノ。サ。キ。ト。白。雲
妙。案。ト。由。テ。流。ル。完全。ナル。窟。ニ。テ。ス。能。ハ。ザ。リ。シ。テ
瀑布。ハ。余。等。面。ヲ。去。リ。テ。直。徑。百。五。十。間。ナリ。標
然。ト。テ。遠。巡。ス。ル。思。ヒ。テ。洞。雲。上。騰。シ。テ。年。等
ノ。衣。ヲ。濡。ス。思。ヒ。テ。評。ニ。之。ヲ。形容。セ。バ。十。二。行
ニ。十。五。字。法。ニ。シ。テ。十。枚。以上。ニ。畫。ハ。恐。ア。リ。又。却。テ。真
景。ヲ。寫。ス。ル。景。ア。リ。即チ。コ。ノ。リ。ノ。記。載。ヲ。終。フ。然。レ。モ。今
一。覽。ス。ベ。キ。乃チ。瀑布。ノ。日。光。中。ノ。壯。觀。ト。セ。ル。源
由。ハ。廣。ニ。其。傳。大。ナル。ガ。カ。ノ。ミ。ニ。非。ス。シ。テ。其。周圍ノ

0且二三番 陽地ハテ一歩ノ内ノ以テ一日(夏地也) 陽ニ散光
ハ長シク 陽ノ中ニハテ以テ一日(夏地也) 陽ニ散光

景色ノ絶佳ナルト其位地ノ尤モ佳ナルトニアル
ナリ余等峠山平陽ノ峻路ヲ攀ゲテ身心共ニ
憩勞スルト同時ニ山ノ巨ク高キヲ覽ユ而シテ且
コノ瀑布ニ逢ヘバ一先ツ造化ノ巧ノ奇キ山
ノ高キニ比シテ益ニ其大ナルヲ想像セシメ余ハコレ
ニ百点ヲ与フルニ我トシザルナリ瀑布ヲ去リテ行ク
好町中禪寺湖畔ニ出テ湖面茫々長クニ里
半中一里ノ半ニ出入ス即チ燧火口ニ水ノ
高漲セルモノナリ湖ノ面ハ中禪寺ノ祠アリ逆
旅の家柳比シテ五テリ余等ハ湖ノ北岸江氏
ヒ行ク一里半折シテ北ニ向フコト也 野鼻ノ滝
アリ七十点ノ價アリト聞キコト終ニ見ザリシ遺塘
ナリ行ク一里町ニシテ小丘アリ燧 燧 燧 燧 燧 燧
ニシテ及ビ連スルハ頂上ハ即チ戰場ノ原ニシテ一
名ヲ赤泥ヶ原ト云フ即チ宇都宮公洞ノ大戰場
ナリ原ハ全ク湿地ニシテ草ノ藎 藎 藎 藎 藎 藎
方一里ノ間 殆ト全ク樹木ヲ生セズ即チ黒鷲山
ノ視野ニシテ往來ハ湖底ナリト疑フガ如ク
コノ日天氣勝麗トシテ雲霧四塞シ四方ノ眺望ナ
シ景右方半里ノ行ニ男体山ノ麓ヲ見北方ニ白根
山ノ裾ヲ思フ得ク原將ニ尽キトナル所ニ逆川
アリ蓋シコノ川好ク西北ニ流ルハ以テ名ク原
跡ニハ山路取マレリ余等ハナホ行ク半里ニ

シテ湯澤ニ連ス滝ハ湯湖ノ下流ニシテ斜ニ岩
石ニ流ラ下ル長ク四十五間折リ極メ快觀ナ
リ余ハ之ニ五十五点ヲ与ヘト欲スルナリ滝ノ傍ニ
石碑アリ大概天彦氏ノ撰ニシテ巖名六一氏ノ筆ニ
カルナキ行ク好町ニシテ湯湖湖畔ニ出テ湖
流ヲ進メバ硫黄ノ臭香奇々トシテ鼻ヲ刺シ
一小村落ヲ認メ得ク即チ湯本ナリ日支
ヨリ中禪寺マテ三里十三町中禪寺ヨリ湯本マテ
實ニ二里十五町ナリ中禪寺ハ日支ノ正西ニあり
湯湖ハ中禪寺ノ西北北ニ當リ余等ハ渡辺氏
ニ投宿シ沐浴ニ盥シ傾ムテ下條山本ノ兩氏ト
袂流ス余等互ニ相告テ今日ノ快樂ヲ喜ビナリ
極ニ訖ク

七月二十七日 (午後大雨)

午前五時起テテ戸ヲ開ケバ昨日ノ雨霧ハカク消
ス如クニ去リテ日當ニ一個ノ高山出現セリ宿ノ男
ソノ名ヲ問ヘバ日支ノ白根山ト云フ奥ノ白根山ト
奥ノ白根ハ其高ク黒鷲山ト相峙シク山腹崩壊シ
テ赤褐色ノ火山岩ヲ露出セリ其状見ルニシテ
思ハズ巖ノ稜セシム山ノ麓ハ即チ上野ニシテ
コノモ浴場アリ而シテ湯本ハ岩ニ山ノ東麓ニアル
ナリ折半全山ノ燧火スルナリ上州ノ浴場ハ大ニ

湖上へ簪へて倒し影は水中に投じ行くと其
形を變じ掃形トナリ倒扇トナリ殊夾縫トナリ
了路リ而方見えバ脚湾出入ニ一島ア上
野島ト云フ勝道上人遺骨ヲ藏し跡に上ニ一
株ノ松アリ島ノ左ニ寺ヲ崎アリ又左ニ歌カ渡アリ
リ殿ハ佳景ナリ湖ノ層々ハマスフ以テサート
ス即チ往年所行ノ高ノ町ナリ高曲ノ渡ヨリ中禪
司ヲ行路一里ナリ一町一時町ヲ引回シテヨリ
ヤリ着ス中禪寺ヲ去ル頃ハ天ヤウヨク曇ル田圃
鹿ノ群ト下リハ兩河ノ淵ニ坐シ余馬ハ奇
馬ノ勢ニ以テ絶壁ヲ馳セ下リ瞬時ニテ田圃
村ノ舊瓦ニ至レバ中山ニ位ノ馬ノ一行トハ休
息シテアツ蓋シ中禪寺ヘ赴クモノナリ余馬ハ
一ヨリ去リテ再ヒ馳セ下リ路十町大日堂ヲ左方
ニ見食満ケ洲ヲ左ニ見ル兩町ハ共ニ名勝
ノ一ニシテ~~蓋~~蓋後スルノ價值アリト云今チ即
チ飯飯ト大雨ト繁ハレテ之ヲ見ル道ナリ
余ハ他日コニ來遊スベシ余馬ハ飯ヲイサシ
欲シ一ナ茅屋ニ入リテうどんヲ食フ味甜ニ
テ食フ能ハス飯ヘケル時ハ食フ撥マストハ
ル余ニ適スルモノニ非ス余ハ撥ヲ飯カハ片ト着
セテホコク食フ撥ニテ坐ル後ニ食フ欲スル
モノナリ已ニテ大雨ハ益々覆スカル夕車前ヲ

流スカル夕車前ヲ見ル夕車前ヲ見ル夕車前ヲ見ル
急行シ午後〇時三十分ホニヨリ衣服ヲ更
ケテ大ニ食フ飯ル山下夕會ニ氏澤ノ余馬
ヲヨリテ且ツ昨夜ノ夢ノ事ヲ語ル余ハ即チ其
日以來快活ヲ笑フ其ニ笑相フ余ガ妻一ツ
置撥ヲ感セシハ昨日山下夕會ガ大猷殿ニ
寫生セシ時皇子 宮殿下ニ遊カレシ由リ皇
殿ノ扉ヲ開キテ三代將軍ノ位碑ヲ示セシ由
與殿ノ中ハ其妻麗は觀望シ地ノ諸殿ニ
騰リ就中十五万円ノ價ル金銀飾物ノ箱アリ
中ニ經文ヲ託ス經文ハ金ノ以テ之ヲ書スリ後
系于ナルヲ知ラス其他ノ蠟燭ハハテ其精
而燭臺坐人ヲ以テ穿カレシト云フ山下夕會ハ
僂伴ニモノ好概ニ際シテコレヲ見タリシモ余ハ
華嚴佛ノ習俗山トヲ見ルト欲シテ既ニ之ヲ
見ル能ハザリシヲ。午後四時下條、此方ノ
兩氏別ヲ告ゲテ京ヨリ回ル。余ハ山下夕會ト
共ニ市街ヲ出テ習真ヲ見舞フ撥揮スルニ時
有ニシテ女如クテ價ヲ定ム偶々コノ家ニ余オホ
至リ於ケル帝主鈴木澤ノ肖像アリ余ヲ望ミテ
其有故ニコニアルヤヲ問フ主人曰クコレ京御津
草公園内ヲ購ヒ歸ルモノナリト余即チ乞フテ
之ヲ得タリ又ク一奇縁ト云フベキニ日暮家

二カソ晩食了既リ余八日死ニ後子マ山下河合ハ
 階羅雜境ヲ事トス河合ハ地豐隆ニテ其ノ
 巧ニス山下ハ地突岨トシ嚙語ヲ吐リ
 常トス而シテ彼等ハ余ノ地如何トナスヤハ之ヲ
 知ラザレモ其言ハ可從ク余意及スルモノアリ
 余嘗テ聞ク水津トキハ声アリ深キハ声ナシト
 嗚呼ル誰レガ為ニ依レル哉ジヤ十時暮ニ
 既ク

七月二十八日

午高才台時起キ八時啓也出キ余照受ハ翻
 二至リ操操ヲ研筑ス〜大猷院ノ如ク拂
 拭ナラズ〜ト相人トテ長品檢ハ一昔時ハ町
 アルガ如ク正午象リリヨク暮色ニ後子マ四
 時半暮色ヲ既ヘ三人連レテ新倉ニ出カテ
 念滿ヶ洲ニ赴ク念滿ヶ洲ハ大芥川ノ一
 部ニシテ神橋ノ西ニ十三町ニアリ〜也兩岸高
 石燈臺蟠リ或ハ長蛇ノ如ク或ハ荒ノ如ク而
 シテ河流奔雷ノ如ク石ニ激テ濤ヲ聳ル尤
 モ奇能ト称ス河ノ南岸ニ石地死アテ化地死ト
 稱ス蓋シ人地ノ基路ヲ尋ルナラズ以テナリト云フ
 余等ハ河ノ北岸ニ出テ欽ニ一條ノ藤橋ヲ跨ハ
 河水高躍來リ余ノ足ヲ捉ヘ特ニ河中ニ臨シ

二十九日

午高才六時半起キ七時半啓也出テ行ク夕西軒
 遊暇ノ掃除〜山下ト河合トガ清ヲ持テ午ノ向ニ
 一ハ余ガ到底録ヲ掃除ナスマジヤ以テナリ併シ余
 亦一ハ河合ノ仕合ナリ九時半ニテ寫生ノ畢リ暮ニ
 河合ノ景色ヲ繪ス〜午時四時頃始テ夕支ノ
 日也ツツナドス〜内夕食ナラシ夕食ノ後余ハ翻
 二後子マト思ヒテガ野舎ニ出キテ誘引ニ從ヒテ新
 街ツアヤコト漫歩ニ既ニ西洋酒店ニ入ケタルニ
 一令ハツル末ニサレ葡萄酒一樽ヲ購ヒシ夕支ノ
 例ノ田口屋ニ入リテ時鐘ニテ冷カシ既ニ時半ヲ
 過ヒテカソノ家ニ一人ノ長アリ局ハハ似テ余
 如ク暮ニシカニ品檢アリ余ハ藤橋トシ山下ハ八
 十點トシ河合ハ八十五點トマ)家ニ帰リテ葡萄酒
 ヲ飲ムニ尽シ耳ヲ熱ク又即チ快ク寝付シ

三十日

午前五時半起申七時の集殿習定に從
 事十一時の朝霧景色に從りて、日暮に至
 コノ朝霧ハハコノ時ニ日交赫ハナクガ如
 シヤリモ正午の突然に急雨降リ光ノ如
 ク庭前ハ急シ。溢ハナリハ池ヲナシ斜ナル
 往來ハ瀧ヲ瀧ヲナシタケル。今日ハ天王ノ業
 尼ニテ郡涯山ノ上ハ特別ニギヤカナル
 ナル。雨降リタバ残リ構ッ思フ内程
 ノ大雨ハ急シ。シテ金ノ雷ニ明月向テシテ雲
 間ニ輝キイバラクニテ一天拭ッガ如クカ徳
 ノ星辰ヲ見テ輝ケテ凡ソ勤女キハ奇也。於
 テ珍シキセル氣候ナリ。夜ニ入リテ新ウノ夜ニ
 十時ニ至ル。余ハニ三日高ヨリ鼻孔中ノ腫痛ヲ
 覺シ又ハカノ全身不潔不愉快ナレバ直
 シテ急ニ下山。夕食ハ業孔見テ出テ
 行キテ女ヲ山下ハ最早十時ニモナレバ已ニ達シ
 テテ直ニカガ後ハハマダ十時ナレバ早ニ
 テ終。夕食ノ勤澤ニ從ヒテ夕ノ定見
 ナキヤ余ハ急行テ知ルズ。又テ一週時セリ
 公行申雨人ナリ。トナリテス。

三十一日

午前五時半起申七時半集殿習定に從
 りス午正家ノ朝霧景色に從りて、明日ハ日
 光散照用儀式ニ付テ日暮時祭典ノ奉行
 アリコトニ付テ踊リ屋倉ヲ出スベキニ由リテ
 踊リ準備ニテ踊リ、脚匠踊リ子等余
 ノ寵ニ推シテ集リ次ノ間ニテ下臺式ヲ如ク
 タリ。先ツフト見通シテ可者地ノ舞好四五
 名踊リ子四五名トテ繋好ハ三味線、鼓ヲ
 ナラシ男ハ大鼓ト笛トヲ持テテ踊リ子
 ハ年、頃十四位トセハ殿ノ女子ニテイモ愛
 シキ貞立ナリ。鼓好玲瓏カク(貞余リ玲
 瓏ニアリ)声ヲ放テテ常盤津ヲ唱ヘバ踊リ子
 ハ之レニ女ヲ舞フ舞トシテ輕キヲ燕ノ如ク
 長キ袂ヲ翻カヘテ足踏ミ鳴ラスツノ風情
 小伎ニテハ中々堅心ナリ。彼等ハ器械的ニ文
 句ヲ暗誦ニ順序ヲ記履スルモノナルベク。彼等
 ガ脚カハ實ニ壯美。歌ハモト云ハザルベク。ス
 然レモ斯カハ藝事ハ覺ヘ易キモノナリ。學問トハ
 記ガ遺ヲモノナリ。若シ學問ニ向ヒテモコノ脚カ
 ナバ實ニ天下無ビナルベキナリ。コノ朝霧ノ景
 ニテ群集セル男女無慮百名。宿ノ庭ハ
 立錫ノ地モナク。又テ殊ノ婦人ハ夜ノ舞ヲ

姿アバ相忍アリ娘モアレバ下女モアリ歌アレバ
羨アリ貴モアレバ賤モアリ余ハツク(トコリヤ)廻ハ
シテ手早く三四人、皇子マヨキ娘イキハ女房達ノ
姿ヲ寫生セシニ娘達ハ身付ヲテ殿赤クシテ遊
グルモ可笑シカリシ併シ余ハコノ學堂ノ為ニ大ニ困
ニ得ル町アリ又沢庵福を町トカ云フ月巴ハ
フルテ洗滌ナル飢寒、終接無礙ニカクヤ
廻ル様、愉快氣ヲレバ余ハ彼レ直ニ直ニシテ
彼ノ像ヲ寫シテ彼ノ名ハシニ彼ハ大ニ喜ビテ
持テリタリ又田口庵ノ良モ今日ノ分ニ其
ヒテ暮リ居リ山下河合ハ其ニ遊延ニ尺杖標
トシテ居リ後ニテ聞ケハ彼ハ宇都宮ノ或ル
家ニ嫁シタルガ行方ニヤ誰モ知リテ来リ
トカサレバ人ハ一面ノ觀察ニテハ見損ズル
モノトスルベシ余ハ娘ヨリ彼ヲ六十五歳ト云
ブニシテ更ニ心ニモ止メザリガ河合山下ハ八十
五歳或ハ九十歳ナリト云ヒ今日彼レガ行儀正
シクハ三時欠テ百点ナリトマデノボセ上ゲ彼レガ
素情ヲ知リテモナホ思ヒキラスセシテハ名ヲ
聞キタリト云ヒケル【尤モコルハ戯シムベシトモ
戯モ後ヲ過クハ戯ハナラズシテ眞言トナリ
ニヤ又戯シハ始ヨリヨキフニ非ズ而シテ其戯レモ
女子ノ間スルモノナルオ中學生ノ對面ニモ聞スハ

カハ戯ハ餘リ多ク言ハヌフヨシトスベシト云フ
テ余ハ決シテホズニ非ス余何リ情ナラン余何リ
戯シク云ハザラン然レモ兩人如ク甚シカラザル
日暮夕食ノ後又ニ對面ニ出カケテ先ツ市中
ヲアツコトヲラ付キ終ニ雪直ニ入りテ冷カ
スヲ猶ト一時召打シテ一天又ニ曇リテ雨シキ
リニ降り出セリ余ハ小降りニナルヲ待テテ向
フ側ノ側ノ田口庵ヘ行キテ冷カク女房
ヲ余ハ埋木ノ草筒ト竹藪ノ急須外ニ
置テ見詰ヒテ家ニ入ル余等ハ殆ト毎夜コ
トコラブルツキコト家ニ立テ暮リテ冷カスヲ例
トスルナガ一ハ不経済ナリ何トナリ
アマツ烈シキ操ナリナルベクハ隔日位ニモ休
モノナリ。
雪ノリテテ田口庵ラシムレ十時申度ニ終
リテハ飯食ノ急須ノ為ノ肌存用リテ系ス
ルト云フ彼ハ年中朝カラ晩マテ艶語流流
ラ吐キ時々唄ヲ唄フ而シテ一時時モ裏面
ル時アリナシ彼ハ斯レテ自ら樂マク草履ノ淺
中澤寺ノ風景ナドヲ更ニ彼レハ一向ニセツ解
セザルモハ女レコレ大ニ余ハ悦ビト反對スル
所以ナリ而シテ余ハ日ニ彼ト起居ノ同シル
モノナリ如何。君以テ如何トナシヤ。

八月一日

午五時起キ八時半来殿 醫定=往るス
 今日ハ或ハ夜頭来り合セ奥殿ヲ見レテ清此
 江任傳ハ之ヲ承課シ整勤ニ務メ掌内セリ余
 モ彼レ等ノ後ニ付テ奥殿ヲ見ヘテ得テ内郭ノ
 院構ノ見直シハ申スニ不及裝飾モ亦莫ク人目
 ヲ眩暈セシム斗リテ天井ニハ野ノ画アル由ナド
 物ヲ隔テ見る由ク不通明ニ之ヲ見ヘテ驚ガ
 リシ史シク後堂ニ入リテ見ルニコハハ百五十毎
 名ニ天皇陛下ノ下賜ナル徑文アリテ金銀
 ヲヤクハナル藤袴籠ノ内ニ我セコノ籠ノ代
 價ハ今日ニ換リテ見ルニ三百五円ヲ數スモノ
 ホル如キヲ能ハザルベシテ又ハ當時ノ名
 草ニテ金地ニ黒塗ヲ施シツ上ニ再ヒ金書
 セシモノニテ表裏ハ赤物ノ色ナシ錦地ナリ
 車由ハ水晶シツ上ニ金組エヲカグセタルモ
 ナリ其傍ニ東亞堂ノ管ノ音ニカゲタル天蓋アリ
 又コハ宝物トセテ守儀ノ釋出ニ聖ノ唱對
 アリ釋出ノ儀ハ幅六尺土ナド大ケハ尺土ナド行
 アリ併シアマリ眞ニ區ヲテ却テ風歌ヲ吹ルニ
 味アリ云フ左ハカク文珠ニシテ幅ハ幅四尺
 五オアリ獅子ノ上ニ乗リシハ姿ニテ眞ノ似画トハ
 甚ク殊ニシテ見ルベキモノアリ左ハ藝伎藝

薩ニシテ中四尺土ナド文珠ト大同ノ風ニコレ等ハ
 通例ノ人ノ見ル所ハザルモナリト云フハコレ等
 ハ幸福ヲシテ其時幸見第スルニ途中ニテ三女
 ノ履蓋ニ逢ヘリ又藝妓ノ一隊ニ逢ヘリ伊豆ノ
 此ヒノ單衣ヲ着タルハヨクシテ面相ハヒコトコ
 オカクオチゴク青ブクレシヤクシツラヒコウヤツラ
 等ヲ多シトス芝ヲ百鬼夜行ノ体トテ平シテ可ナルベシ
 余ハ理髪店ニ入リテ髪ヲキリ後ヲスリテ天晴
 ノ義犬丈トナリ余ノ聲ハ本月五日ニ剃タルニ
 ナルハ鼻下ハ三分位ニ延ビ顔ノ下ハ四分以上ニ
 延ビコト山ノ下ハ鬚ヲ蓄ヘト再三勸ムルヲ余ハ
 剃然トシテ剃リタルガ實ハサシ昔シカリシツ支シ
 家ニ入り直キニ暫ク停車場ニ赴テ今日ノ陶匠
 式ヲ見ケル世ニ雨又ニ降リ来リテ須臾ノ間ニ
 (激勢)如クカチカハヘテ霹靂轟々電光閃々
 宇宙モ倒レ流シ天柱碎ケ地維欠ルノ猛勢
 ヲ見ケルヤハ藝妓達ヲテ單履ヲ垂テ白足袋ヲ
 ブラサゲ衣ヲ高クカゲテ跣足ニテシヨ本ノ性
 来ス見共ニカケル有様ナリ停車場ハ市街
 ヲ外シテ直ニ左手ニアリ場ノ内外ハ立錫ノ地
 ナリ此ノ人ヲ以テ充滿シテ混雜安ニ云フ斗リテ
 場ノ左手ニハ陶匠式場ヲ設ケ環門ヲ作り
 坐席ヲ備ヘ茶果五食等ノ用意アリナリ

此より煙火ヲアゲル氏大雨ノ中ト云ヒ喧嘩
ル人ノ中アルバ礮然タルノ声モ聞コヘ又斗リナリ
十一時五十分東雲集、海東義シヨリ衆込人ニハ
小松文、李長孫若氏アル武場集マリテ何かアリ
シルベシ余ハ空腹ニ堪ヘズ且ツ雜貨ニ堪ヘザレバヤ
ハ小降リニヒルア際ヲ欠テ一帯ニ喜ヒコリテ看也
ニ從フシ又雜画ノ事ニ日暮一天全ク晴レ後
雲収メテ落日斜ニ地ヲ照セリ六時ヨリ余、弟
隣地觀音寺ニ於テ茶室中テ警急ノ聲アリ
傍聴科三十餘ニテ却符ヲ賣リタレモ三十餘
ト聲キテ行キ見ルモ一人モナシ云フ余ハ一帯ニ
ハノ音楽ヲ聞キ一帯ニハ煙火ノ壯散ヲ聞ク
テ口中甚ク快シ夕食後三人共ニテ市街ヲ遊
歩シ芝ノ下ノ方ヘトテ行キ先ヨリ男女共ニテ
争フテ空の下ノ方ヘトテ出ヌ有様ナリト見レバ路
ノ右手ニ大ハカニ日芝町祝宴會場トナリカヤ
橋上橋下ハ人ノ以テ交々サレタリ下坐者ハハ所見
シハ踊リテ見物黒山ノ如ク集集シタリ余モ一
寸見テ往キ度ク思ヒ山下ト共ニ遊シ延バヒテ眺メカ
ニ河内ハ冷淡ニモツマヌ物ヲ見タガ人達哉トテ
ワナリ余等カ思フ妙ナリ余等ハ史シヨリ新湊山ヲ
市ノ北ハカノ丘上ニ登リテ葦原ニ總ヒタルガ時
ニモ王見東天ニ躍リ出テ明暎々トシテ白昼ノ如ク

既、全市街ヨリ四方ノ山々手ノ如ク見ヘル
モ亦近頃一大奇景ナリ余等ハ河内カ明日ヨリ
高スルニ付テ別宴ヲ開カンテ相持テセガ河内
山下ハ大下戸ニレバ正レコトヲ主張シテ已マズ既
余ハ余、心ノ狂ヤテ彼等ニ同意シテ屋ニ
リヌ余ハ元來レコトヲ好マズ余ノ不學氣ニテ夢
酒デモ飲マント、漫ラ提出シタレモ果敢ナ
ク猛烈ナルレコト虎ノ聲倒サレヌ。今日市街ノ
騒聲ハ既、大今オ一テ戸毎ニ祝宴ヲ開ク又ハ
ナクハ藝妓ハハ希、低ヒシヤン造ガ坐
器ノ用施、眼玉ヲヒツクカハスト云フ藝キ宴
ハ何レモ痛飯放歌ヲ喧けテ見同前ナリ
余等ハノ、俗界ニ五カリテ俗氣ヲ生シ爲ニ俗行
ヲナス鳴呼余等モ亦俗人ナル哉。
十一時家ニヨリ歸ニ既、河内ハ明日ヨクハ田
舎娘ヲ見ルヲ得ザラシテ心底ヨリ羨胆ニシ
テハモ一日逗留セシカナドおリ云テ母父ノ急病
ハ全ク忘レシタルヲモテ山下モ申々熱心ナル
様子ナリ河内ハ余ニ君ハ無慮、腦ヲ有スガト
云フ故余ハ余、腦ハカハ細事ニ費シ難シト
言ヘタリ彼ハ義、藤哥、坂ノ風全ク巧見
令色ニ喜ルモノナリ凡人共ニ後投奇聲而シ
尚々戲謔ヲ用エバツノ戲、瀝ハ洗トシテ風味

アツモツノ人ノ人物ヲ傷ハズ然レモ友表シ野野
野部ニシテ戯遊ノ土ナリカモバツルバツノ戯
遊ハ一文ノ便モナリ而シテ又ニツノ人物ツレマシ
下等ナリシハ慎マザルベケンヤ。余實テ以テ為ラシ凡ソ
大丈夫タルモノハ其の中森茂奇抜ニシテ峻岳ノ
向ニ昂ニルカナルク而シテ其向ニ高尚偉義ナルヲ
風明月ノ如クナルモノナカレバカラズ。人表シコ
両性ナクシテ外ハ可巻ノ書ヲ讀ミテ宇宙ノ真理ヲ
究ムルモ何益カアラント余ノ見表シ強テ考アヲハ
乞フ教示セヨ。

或ハ論者ハ日ク凡ソ己ノ思フ所ハ敢テ斥擯スル所ナ
ク之ヲ吐露スルコトヲ真ノ大膽ト云フ故ニ苟モ大膽大
胆ナル者ハ彼ノ是ハ曲直義悪邪正世ノ急ヲ述ベテ
諫ス所ナカレバ其ノ鳴呼ル所ニ何ノ益ナキヤ表シ論
者云フシ実行セシナバ世ハ忽チ此ヲ修養道トシテ曰シ
余ハ汝ヲ要スル已ムヲ得ズシテ汝ト交ハナリ日ノ余ハ突
ハ汝ノ死センヲ望ム汝ノ腹腹ヲ奪ハト思フバナリ日ノ余
ハ汝トホレタハ非ズ只汝ノ全ク取テ去ルナリ日ノ余ハ突
無事無識ナリ然レモヨク大衆ヲ土キテ人ヲ誑ス日ノ余ハ
突ハ云ク愚ク為ル所ナリテ之ヲ人ニ託シテ斯ルヤルコト
テ死毎一日モ立フベキ謂ハレ去レバ己ノ思フ所ハ
ヨク述テ然レ後吐露スベシノ輩ハ轉々騰ヲ見
スカラレト勿レ

又世ノ朋友ト云フモノ見レ或ハ陽ニ就ル陰ニ執
納レザルモノア、或ハ狎レ親レテ恠ニ至ルモノア、等
共ニ莫ク朋友トナゾカス得ザルヲ余ハ以テラシ真ノ
朋友ハ信ナルベカラズ礼ナカレバカラズ義ナルベ
カラズト余ハ親友トスル情誼存クモ交ハレテ常ニ
正義ヲ取テ後ヲ急難相濟ト共意相傾ツコ
信ナク義ナクコト以テ友情ナク深シ而シテ閑談
雜沓ノ間ニ往々戲謔ヲ吐外果而シテ常ニ恥ラズ
ズ互ニ相諷諭ス莫ク以テ相交レテ猶ハ八年来ノ一
ニ睚眦ノ恨ヲ存シコトアラス余ハ常ニ余ノ良友有
シ真正ノ交ラナスヲ望ムモノナリ而シテ余ハ深ク世間浮
淺少年等朝ニ親レテ夕ニ疎ナルガ如ク悲シ又
其親密流レテ乱レ隔ノ毫モ匪讓レ礼義ナキヲ悲シ
テナリ昔ニ華盛頓ハ一生中ニ一たび人ヲ狎レテコト
ト云フ余亦コト華盛頓ノ如ク一ニ當ラズト云フ又何ソコ
義徳ヲ慕ハザランヤ

八月二日

今朝ハ河合老大人ノ出立コヘイツモヨリハ早達ニ出
ダシ七時ハ會ハ出立セテ彼レガ心中ヲ試ニ悲憤シ
内覽スベキハシハラス坐シテ之ヲ周テ至ヘ
鳴呼イヨ(今日ハ歸ルコトニナラシガドモ突ノ縁ノカ
ナイ田口屋ノ良ハハ一達ヘナト思フト悲シト云フ

八月三日

午前六時起き見心十雨シボク17年リタルガハ
時比交ワナ月青タリ余ハ山下影係ノニ氏ト共ニ
霧降滝へ行カンワシ企テ早ク脚キツラビシ付テ
ア寄ル出ラタシ余ハ

雨ふり霧ふりへ行く風狂ふり

とロズナシ假括リ泳ヲ箱荷川ヲ泳リテ小倉山ト
スフ小ノ麓ニ出テタラコレヨリ山路ヲ登リ行ク大
凡一里行ク北々微東ノ向ヲ進ミ行クニ黒髪山ト
靉然トシ正西ニ見ヘ赤蘆山ハ岫然トシテ北々微西
ニ岨ヲ蓋シ霧降滝道ハ赤蘆山ノ裾野ノ上ヲ横ガリテ
岡キリルモノナリ巴シテ余等ノ一ノ小丘ノ上ニ至レバ
一茶屋アリ連ル霧降滝ノ上部ヲ望ムベレコノ河ハ
一面ニ裾野トシテ若木ヲ青クト草生ト成ラテ一丘ハ
一陸ノ上ニ一周ハ一密ノ上ニ次第々々ニ重ナラ果
ハ雲間ニ入ラテ赤蘆山トナルノ左ニ見ルハ男体山カ
ソノ又左ニ見ルハ足尾ノ銅山トシテ赤トスガクニハ不
物ト下ニ直ク又ソノ左ニ見ルハ古峰ノ原ト云フ高山
ニテ天狗岳トシテ前者多シカヤ又ソノ左ニ一月山
アリ山下ノ人家見ユルハ日光町ヲヌツト左ニ松林アル
ハ官道ヲ林ノ間ノ人家見ユルハ今市ヲ今市アリ左
ハ山開キ野連リ小丘起伏シテ宇都宮ノ市ニ達シ
常陸ノ界ニ至テ止ル赤蘆山ノ右手ハ山ノ向ク高原

山ヲ眺ムベレ其景色ハ実ニ日光中ノ路多クラスト後
ズルヲ茶屋ヲリ峻険ナル断崖ト下ノ行テ五町ニシテ
滝ノ下ニ出テ滝ハ一ニノニツニカレ上ナルノ滝ト
云ヒ高サ十六間アリ下ナルニノノ見ユルハ高サ十五
間アリコノコノノ滝ハ見ユルニハ滝ハ中央ヨリテ
ニツニカレ左ノ一派ハ不ノ漸シテ更ニ無数ノ小
派ニ分レテ下ル其形状実ニ蜿蜒ニシテ人ニ詭
ルガ如クシ水勢ハ峯ニ注ラテ以テ大ニ強クテ近
グキテ之ヲ涉ルヲ得ベク木根ニ由リテ滝ノ下部
ニ登ルヲ得ベシサレバコノ滝ハ麗美ニシテコノ人
ヲ引キ人ハ容易ニ之ニ狎近フクテ得ルモ高尚嚴
格ノ氣韻ニ乏シキヲ覺ス然レモ其美ハ日光ノ一
モ珍スベク画ニ寫スニ於テ尤モ味アリ故ニ余ハ
之ニ七十点ヲ与フルモノナリ。コノ滝ハ一層カ丈直ク
下ル勢ヲ僅カニ峯ニ注ラテ下ルノ状ハ之ヲ婦女ニ
比スベク而シテ激湍ノ滝ニシテ自由ノ人トシテ海ヲ
ムルハ其氣味温順ノ風ヲ示ス故ニ余ハ之ヲ以テ
佳人ニ比スルモノナリ。激湍ノ傍ニ一大石アリコノ
云々ノ四字ヲ刻ミ清國人ノ書ニカキテ置ク。
余ハコレヲ日光ノ三傑トシテ其ノ一トシテ其ノ美
際ニ三瀑布ヲ見ク其他湯滝般菜子等ニ籠
泉ノ見ルコトアリ脚ヲ左ニシテ昆吾ヲ試シシ其吉
否ハ余ハ決シテアラザルナリ

世に旅、車ハカキ捺テトヌツアリ余等ガ今日、鈍
帳入ッハ、實ハ餘リ晨事アラス、東京ニ戻リテハ、
モカ、行ハナシ得ザルベキモ、旅ノ効用、
在ルモノニテ、余等ハ、微服、微行シテ、之ヲ行ヘバ、
更ニ羞ヘナキヲ、假令ハ、東京市中ニテ、一瞬
ソレヲ食ハ、曾々ハ、ナキモ、山中ノ、村里ニテ、ハ、
分濁酒一盃ヲ、飲ムニ、シテ、ソレヲ、燗キ、芋、煮
コロガシテ、一膳ヲ、食フヲ、珍シセザルカ、女ノ、
ナルベシ、而シテ、^二膳^一ヲ、食フハ、一物、
快楽アリテ、山海ノ、珍味ヲ、ワラハルニ、
思ヒ、アト、同シク、田舎ノ、鈍帳ヲ、
見モ、及バザル程ノ、快楽ヲ、
トスツベキノ、

午後十一時、
余等ハ、日没、町中ノ、人ニ、
余等、
トスツベキノ、

八月四日

午前十時、
僅ク、
七、
進ミ、
ニ、
ヲ、
木、
賤ノ、
源シ、
ニ、
ナリ、
出ル、
余等、
娘ハ、
ク、
キ、
ヘ、
隔、
喉、
コ、

梨の夢入リヤ疑ハシ思フナリ。

●ハ時ヨシ三人連レテ家ヲ出テ先ツ大猷院^{坊主} 坊主
ツクベキ事ニ、折テラリ借ヒタリ新保氏^{名ニ余ハ}
日光神觀^{手廻}ヲ終リ同氏^{ヨシ}ヲ猪^{レク}諸殿^ヲ
見物セシヨリ同氏ハ猪^外鬻^欺セリ山下^ハ
よかえ^ヲ物主^ト相^心物主^ハ大^ニ恐^境シヨリ由
三人ハ^余茂^ニ猪^ヒ鬻^子及^ヒ此^レヲ食^ヒ午^ニ歸^ル
帰^ル折^作リ^カカ^ル。

午後三時半ヨリ余ハ新保氏^ヲ誘ヒテ倉備^ヲ
游^ルニ赴^キ見^ルニ今^日ハ芝^ノ日^{ヨリ}モヨク晴^シテ
男体山^ノツク^ト尺^尺ノ間^ニ見^ルハカ^ク一^段
芝^景ヲ添^ヘリ^コシ食^備ハ雨^ニ宜^シト云^ヒ侍^ハ
フ余^ハ雨^ノ日^ニ見^ザル^ヲリス^テ雨^中ノ景^ヲ撮^像シ
フ能^ハズト虽^余恐^カハ其^却テ快^日晴^日ニ及^バ
バザシ^ニテ食^備ヲ去^リテ行^クテ六^町布^糸丸^大日
堂^路傍^リテ庭^園景^色小^奇麗^ニシテ驚^スベシ
走^リテ旧^道ニ出^テ西^町ヲ經^テ知^道ニ到^リ
全身^甚ク疲^勞シ飢^渴交^ニ至^リテ糞^ト糞^ト糞^ト
モ余^ハ旅^費已^ニ竭^キニテス^テ際^ニハ^バ一^瓶
食^一杯^ノビ^ルス^テ心^ニマ^カセ^ズ自^ラ巴^レテ境
界^ヲ笑^ヒテ午後五^時返^キ家^ニリ^テ日^暮食^ヲ
後^中街^ノ甚^場ノ例^ノ田^口屋^ヲ冷^カシテニ^三
買^物ヲ洞^ノ洞^ニテ^テ屋^ニテ^テ甲^ニ入^リテ各^ニ

久慈郡平磯町、一ツオケニ常陸國久慈郡平
磯町ヨク暗誦シテ忘^ルマ^ジコ^ハハ^ニ度^ト来^レマ^シ
テ^テ茶^ノ地^ニ難^ク南^無八^佛大^甚薩^南無^金民^羅大
摧^現、述^ハ信^海英^支寺^如來^夢國^ヲハ^廣島^大洗^禮
ノ神^ノ橋^折テ祈^念シ^テ行^ク程^ニ馳^ノ腹^中鳴^動シ
便^通ヲ催^シ来^レバ^テカ^ハ少^シレ^タラ^バキ^人通^リナ^キ
過^リテ^テ通^ルハ^ハ尾^籠ヲ^ガリ^シカ^カ絞^リ出^セレ^ガ支
レ^リ痛^頓ニ^去リ^テ後^{ヨリ}昨日^セル^ノ舟^ヲ既^ニテ^テ那^珂河
ヲ上^リテ^テ舟^ノ原^カユ^レ物^ヲヨ^ク眠^氣ヲ催^シテ^テ全^ク思^ハ
ズ^テ熟^睡セ^リ十一^時水^戸ノ橋^ス即^チテ^テ一^コソ^ノ傍^ヲ
ハ^ハ枕^木ヲ^取テ^テ休息^シ昼^飯ヲ喫^シテ^テ二^時茶^ヲ飲^ミ
車^ニ乗^リテ^テ宇^部ノ^向テ^テ期^ス。

二時十分乗車^テ山^ノ向^テテ^テ像^殿ノ^右方^ニテ^テ丘^ノ腹^ニ下
回^リテ^テ穴^ノ者^ナリ^テ幅^六尺^{ヨリ}九^尺又^高サ^手相^着ク^テ即
チ^テ古^代人^政ノ^穴底^ノ
也^ニテ^テ或^ハ北^方深^ク
モ^テア^リテ^テ山^ノノ^深キ^所迄
着^キテ^テ待^ツテ^テ大^尺四^十余
分^ノ午後六^時半^テ宇^部ニ
到^リテ^テ市^街ノ^大ノ^南北
東南^ノ旧^城アリ^テ凡^ソ
ク^テ水^戸ノ^勝ル^ルノ^實ニ
第^一中^心ニ^テ辰^山及^ヒ松

龜田等の手塚屋、吉市カノ逆旅にテ 指尾、丸
尾等、以テ沐浴夕飯ヲ終リ市街ヲ始メ、
往東園ノガセル、其取負、此傍セハハ、此溝
茶文、見物師、自餘、舖店、置置、科集、老
里、又、諸、景況、強ト、赤、小、川、河、傍、日、ニ、比、ス
ベク、而シテ、街市、學、早、ニ、赤、山、川、河、傍、保、可、此、
ベ、ト、ス、聞、ハ、州、中、部、換、換、以、テ、大、都、ハ、即、チ、
年、都、筑、ニ、テ、余、ノ、旅、中、名、大、屋、静、同、以、テ、
都、ヲ、知、察、後、サ、レ、ク、陸、況、シ、余、ハ、物、子、ノ、上、ニ、登
リ、テ、涼、ノ、内、レ、得、悉、ハ、ハ、ト、ホ、ガ、ン、ヲ、弄、ス、
流、子、ア、リ、尺、ハ、ク、吹、テ、余、ハ、調、ハ、合、奏、シ、又、
奏、音、ヲ、放、テ、高、吟、ス、謂、フ、コ、レ、音、業、子、技、ニ、
同、存、ル、人、ナ、ラ、ン、ト、是、ハ、カ、ハ、酒、會、ノ、
旅、業、當、然、ト、シ、テ、仙、境、ニ、入、
ル、ガ、ル、ク、ガ、ニ、旅、情、ヲ、忘、ル、ハ、
ニ、至、リ、ト、シ、テ、十、時

獲、此、リ、コ、レ、夜、ノ、夜、具、ニ、
名、大、屋、ヲ、
テ、今、又、夏、ノ、
セ、テ、旅、情、
茶、代、ヲ、
投、セ、日、
呵、ハ、

仲、廣、風、ハ、ス、カ、テ、ズ、余、ハ、帽、ヲ、
奪、ヒ、去、リ、
ニ、落、シ、
中、ニ、
通、理、
押、シ、
由、
タ、リ

帽、ト、ハ、
か、
午、
洋服、
増、
軍、
使、

か野、深き、東に長野

已に一段、陸地、こゝに

とセザリシ、坂城、歌

跡、又、上田、ハル、城、跡

一、云、上田、以、東、ハ、地

方、至、ハ、已、に、往、有、名、ハ

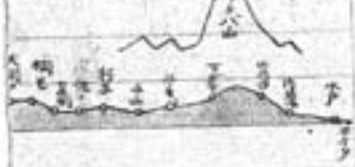
浅、方、岳、裸、野、カ、レ、リ

衣、裸、野、ニ、於、テ、一、氣、ス、ベ

シ、柳、ハ、裸、野、ト、云、フ、ハ、噴

火、山、ノ、麓、ノ、方、ハ、ル、ヲ、飲

斜、サ、テ、キ、部、分、ヲ、辨、ス



又、野、ノ、有、セ、ス、余、知、ル

オ、ト、ス、コ、ハ、富、士、全、岳、ヲ

ヲ、兼、テ、而、シ、ラ、コ、レ、ハ、次、ノ、モ

ノ、岳、ハ、甲、辰、ノ、界、ヲ、立

ニ、ガ、リ、廣、ク、五、方、里、ヲ、次

リ、南、ニ、廣、ク、六、三、里、ニ

城、ニ、モ、裸、野、ヲ、述、ベ、ハ



フナナキ常盤、陽子底、女は此に氷底に入て
 、多ハ風流子、竹外者、此に京都、此に車
 文に常盤に一錢の投、此に一盃、此に直に去ハ
 便殿に、此に各地、此に一般、男女多キコトハ
 容易、觀望ハ此に方法、一錢、特別に此に
 婀娜、此に内、此に指、此に合、此に流、此に風
 此にナ、此に九、此に道、此に物、此に十、此に時、此に計、



装ヒニ大同小異ト知ルベシ 軀テ大半ニ至レバコ
ハ風ノ烈シキヲ流同形ニテ其速カハ一ノ寸百
ニ百里以上ト思ハル 樹木ハ悉ク靡キ草ハ悉
ク地ニ伏ス 雨ハ彈丸ヨリ烈シク顔ヲ打タルレ
バめニ痛ク覺ユサレバ傘ハ全クツノ交カラナサズ
クツヤトカヲ傘ヲ杖ニ更ヘ十歩走リテハ木ノ幹
カゲニ隠レニ十歩進テハ草ノ中ニ蹲マルカク
氣ヲユルセバ千段ノ谷ニ吹キ落サルニツラ
余草ハ只戰々競々寒氣腕ニ徹シテ凍ヘ死ス
リニ覺ヘサキニ飲ミ酒亮ハ瞬目ニ消ヘ失セ果テ
タリサレバ余ノ如キハ顔色憔悴シテ茶デソ唇ハ
紫色ニ變レ頭ヨリシタニ雨ハ顔ヲ借ツテ腹
ニ墮スツノ形状ハコノ世人トハ見ヘザリタルベシ
千草五葉ヲ履テマウヤク 陸地ニ連シタル丘ハ
許少ニ時申ナリ 今日ノ大雨ニ由リ流流ハ水
勢激怒シ諸心憂シキ瀑布多ク出来タリ 草
葉ハ若シノ中ニモハハ欠ク又無量ノ草ヲ得ル
又余ハ雲ガ雨ニ變ズルノ真況ヲ觀察ニ得
タルハ實ニ羨バシカラシ一葉ノ雨雲風ニ從テ
舞ヒ下リテ散リテ雨トナルニ東雲ハ肌赤トシ
水球ニシテ成ルモノナレバ固ク水溜トシ雨ト
ナルト大ニ凄空ノ場町ヲ生ス 空氣ハコレヲ滿
クサントシテ非常ナル速カラシク運動シ来トフ

コノ激風山ニ衝突シテ更ニ方向ヲ變レコノ風
ハ更ニ他ノ雲ヲ吹キテ雨ニ化セシ第ニ循環シ
止リキナシコノ形ニ風ノ方向ヲ常ニ旋轉シテ一
定セズコレ深山ノ雨ハ必ス風ニ伴ハル所
以ナリ余ハ一カハ昔街的ノ現象ヲナシテハ
俗界ノ苦難ノ後ク其心事蓋シ混乱迷暗ト
ルモノアルツ果チテ出テ羽鳥ニ入ルニ暴風
ナホ知ラズ余ハ羽鳥氏ノ傘ニ便リテ峠ノ下
ニ道路患リ船ヲ舟行尤ニ難義ナリコノ午
時四時四十分迄ノ浪ノ波ニ盡ク商人ノ全
身水ニヒタリ寒氣骨ヲ穿ツガ如シ即チ燵ニツ
テ温コトヲ衣ヲ更ニコトヨリ半尺マテ四里ニ迄
ト昇ツルニアルニ大括要蓋相生ハ大水ニ由リ
流失セシト云フニ由リ余等ハ憂ニ望ミ失ヒコカ
ニ是れニ今夜ノ如クスベシト思ヒ車ヲ僞ヒテ長
村ヲ割出シ町ニ出テリカ定メテ企テリ午時六
時既ノ次ヲ禁シ行クニ里人ノ向ヘバ割出
テモ流出シツト云フ即チ余等ハ進退憂々各
ツテ如クトモスベシ 標ナリ路ニ坪山村 梅
津園我ガハ一泊スルニ決セリ午時七時
區キ梅津ガハ晨一泊シ明日ノ人ノ余等ニ
シ強費ヲ取ソフヲ企テリ余ハ羽鳥氏ト旅
装ヲトナテ唯ニ就キ機ノ五色ノ息ヲ吹ク

次余等ハ今日ノ幸甚ヲ物決リ出ラサルオ余ハ
 コノ月ノ永久ニ記憶シテ忘レマシドテフ新保氏
 コノ月ノ記憶シテハ二人ノ幸甚スハ固ク固ク
 鳩ハト云ノ余等ハ交ニ旅情ヲ訴ヘ余ノ家ニ
 早産カ一息余リナハハ河ノ畔ヲコニ逗留スル
 トハ倦モコト運ヲキ限リナク家ニマハヤカ斗
 案ニ快ヒテオラスナドハ、歎クハツキナラベ立
 ナカキナハナク幸甚ニ此キナリ

八月七日

午前六時半起キ出テ見ルニ雨ナホ大ニ降ル
 ナルニ余等ハ一通仕度ヲ急ノ家ノ
 訖父ニ托シテ家ノ事務ヲ具シテイ夜更ニ
 日念人ノ正直ナハ、急ニ河濱ニガガ笠ニ身ヲ裝
 ヒテ雨ノ庇リテ出テ行キタルガ十時頃ナリ
 ナリ来リテ朝スラコト松川筋ノ橋梁ハマツテ残
 隙先ニ於テ明クシテ御岸ニ至ニベテオラス
 保命ノ厚クスルハ、漸クニ至リテ茶子冬ノ盤ニ
 ナリテト云フ余等ハ家ニ至テ大ニ失望シタリ
 今日ノ新保氏一息ノ御嶽ノ櫻井氏ノ子ニ遊ル
 ナリ旅情ノ甚クナリ午時一時空遊余ノ家ノ
 早産カト云フ余等ハ朝ノ早ニ来リテ余等

ハ且ツ時ナキ且ト莫ク如何ニシテコノニ来レルナリ
 ナリ新田橋ノ末ノ流出セザラシ固ク知リテコノ
 流ノ来リト云フナリ櫻井氏ニ高足駝ニテ
 家ノ家ニ至テ余等ノ御嶽ノ運ヲ得ルバ
 速ニ旅装ヲ調ヘ一人ノ荷負ヒテ鹿ヒテ
 等ニ竹井村ニテ、徒勞ニ走ルコト車ヲ飛
 直キテ御嶽スルバ一息ノ人々莫ク迎ヘテ日出度
 御出度ニ
 コノ下ニ雄虎ノ御嶽ノ御成ノ人々果
 等ニ御嶽ノ物ヲ決ラレテ罷ス

名山評点		箱根山	夏少年
富士山	14000 ^c	仁君	頑童
大山		易者	卓見家
箱根山			美術家
赤石山		神高	好木家
惠那山		教官	風流家
駒岳		政治家	
上岳		宰相	
栗駒岳		大將軍	
飯岳		猛將	
立山		元帥	
蓮花山		勇將	
磐梯			愛国家
戸隠山		隱士	
高島山	1	有志家	
花笠山			
四阿山			
摩子山		人望家	
立持山		車路家	
八岳		權謀家	
阿蘇山		音才子	
瑛山		才子	
李陵山		才子	

10
13:1

九月二日

午前六時起床、用茶のう濁へんこ
 片谷地へ路、往見友死氏車場ス次ヲ乳
 母野氏ニ車場モリ年々ハ山田鏡死モ出由
 二茶ハバ往ハ未明、氣ハ繁シテ余ヲ誘フテ
 ト思ヒ待ラドモ待ラドモ更ニ来ラズ、用モ早政へ
 高ク時計ハ時ヲ報セシカバ、余ハ今ハ一歳
 ノ人ニ及来場者ニ別シ、昔ケテ出立スルニ老母ハ流
 母ハ涙モコツ。建者ハ其ノト斗リ父母モ日暮
 胃ニ交ケルハコ女ハ余ハコレ等ハ拘ラズ、所然
 上レノ門ヲ出テレカ行ラフナ時ナラズ、此ヲ思フ
 一揮、暗窓起リ後髪ヲ引カ、心地ニ替ラ
 二テ胃暗シテ又於此タレ、市ヲ離ルハ、
 再ニ雲ハ斯ナルナルヲ、路回或ハ失ヒ或ハ急
 へ千五ノ忘想胃、走ケルヲ行外シモナシ、
 里幸、足ヲ止キテ菓子ニ至リ、コニテ午飯ヲ
 喫シ、隨處ニ出テ大平大流堰場、三股ニ止キ、
 右ニ時福島、上安ニ着ス、途中、直路ハ、険峻、
 三ツニ遠ヘテ、鐵車ハ、片時モ安穩ナルコトナシ、大流包
 二テ一取、獲テマ、倒シ余ハ、暴ラテシカレハ、
 大地ニ投ケ出ケルノ幸ニ、身ニ怪哉ハナリシモ、
 骨ハ為ニ一平、損シタリ、幸ハ、往日暴風ニ、損ハレ
 二ルガ、備テ、余ハ、筆ニ、録ナキコトヨ



山子山

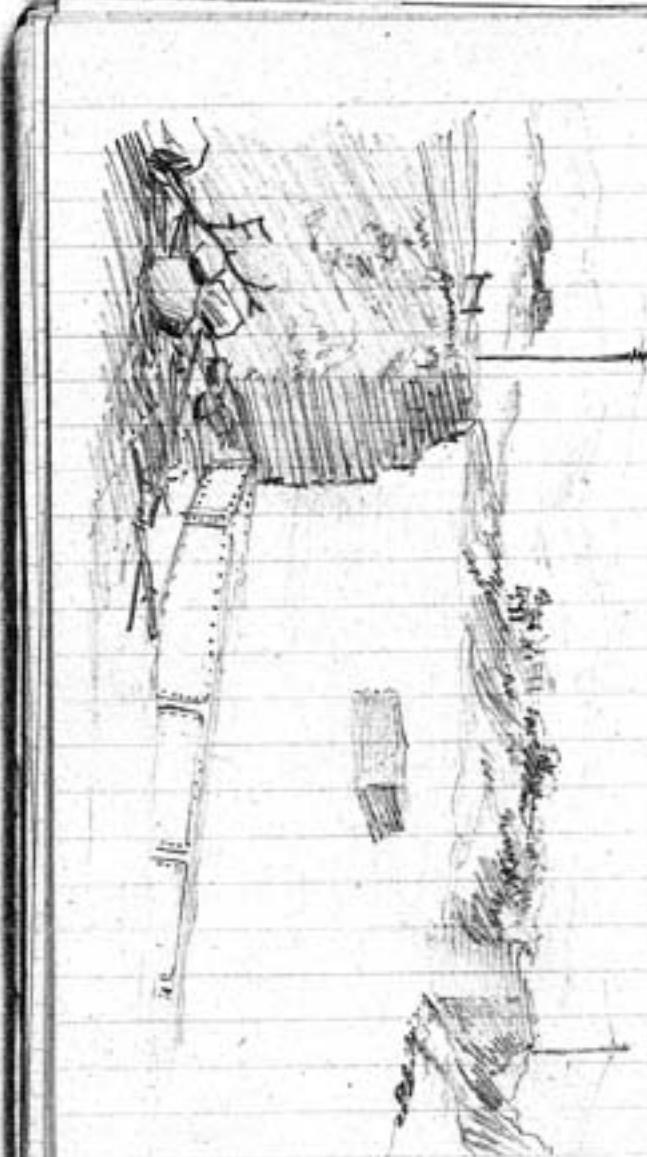
山子山

山子山

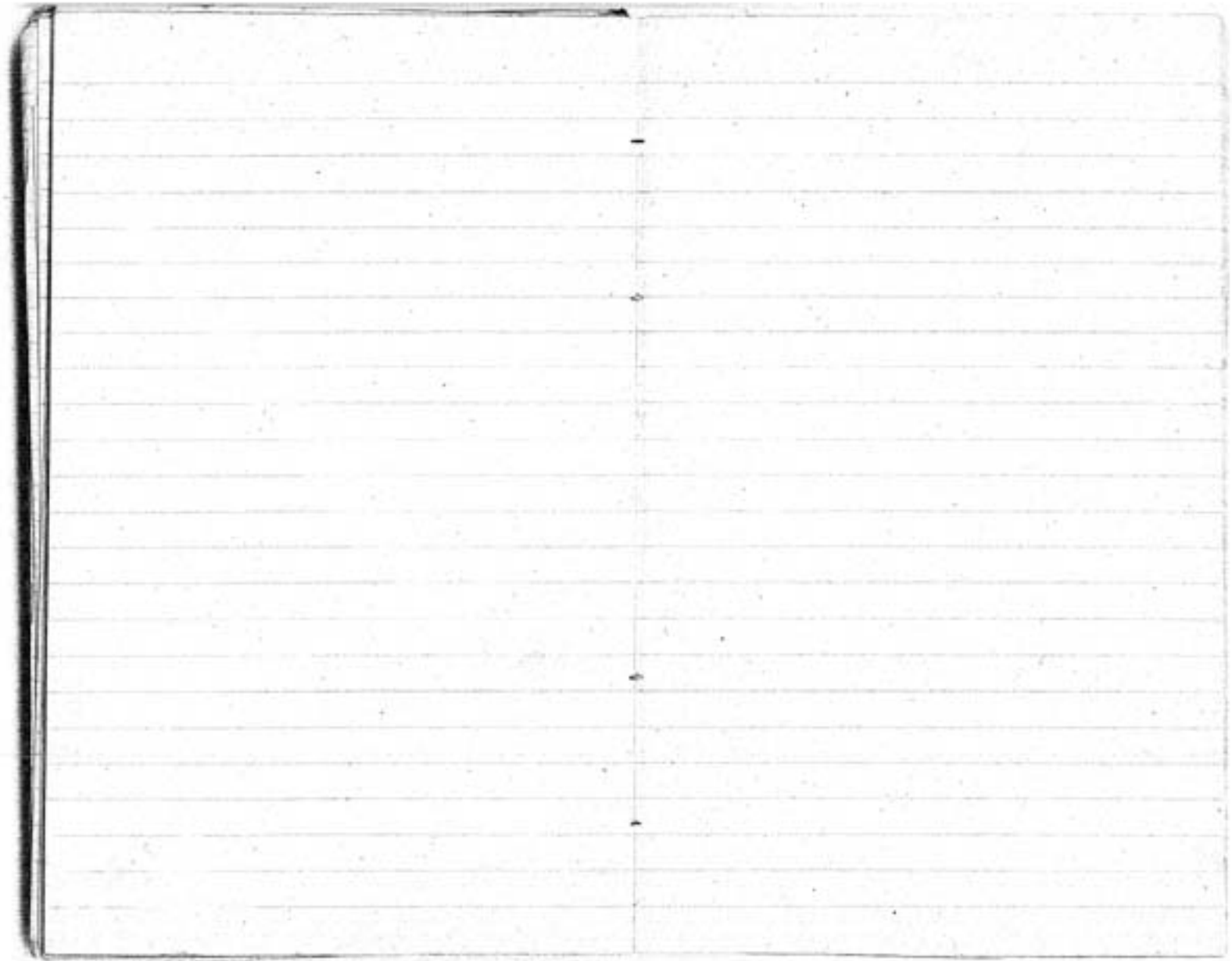
山子山

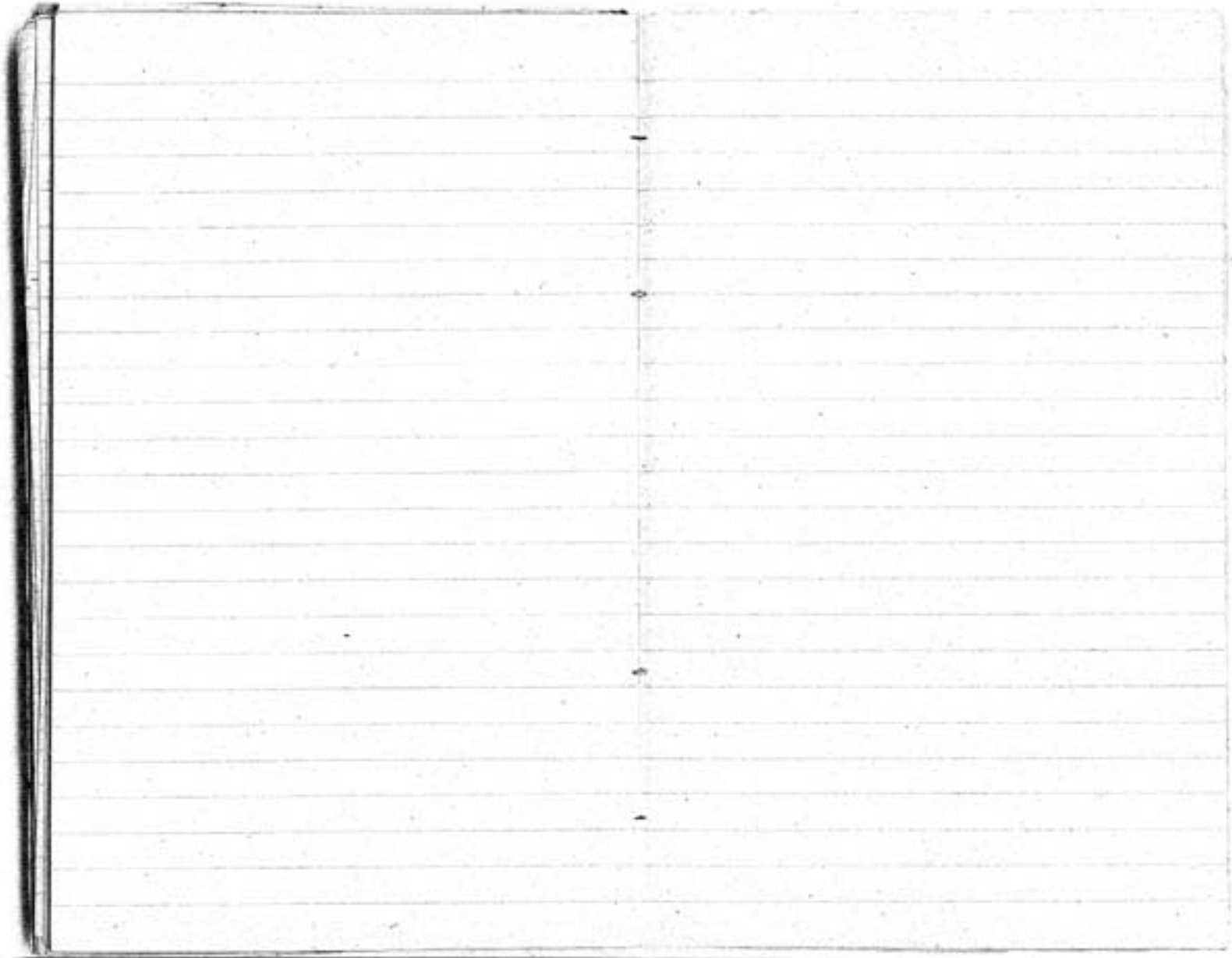
山子山

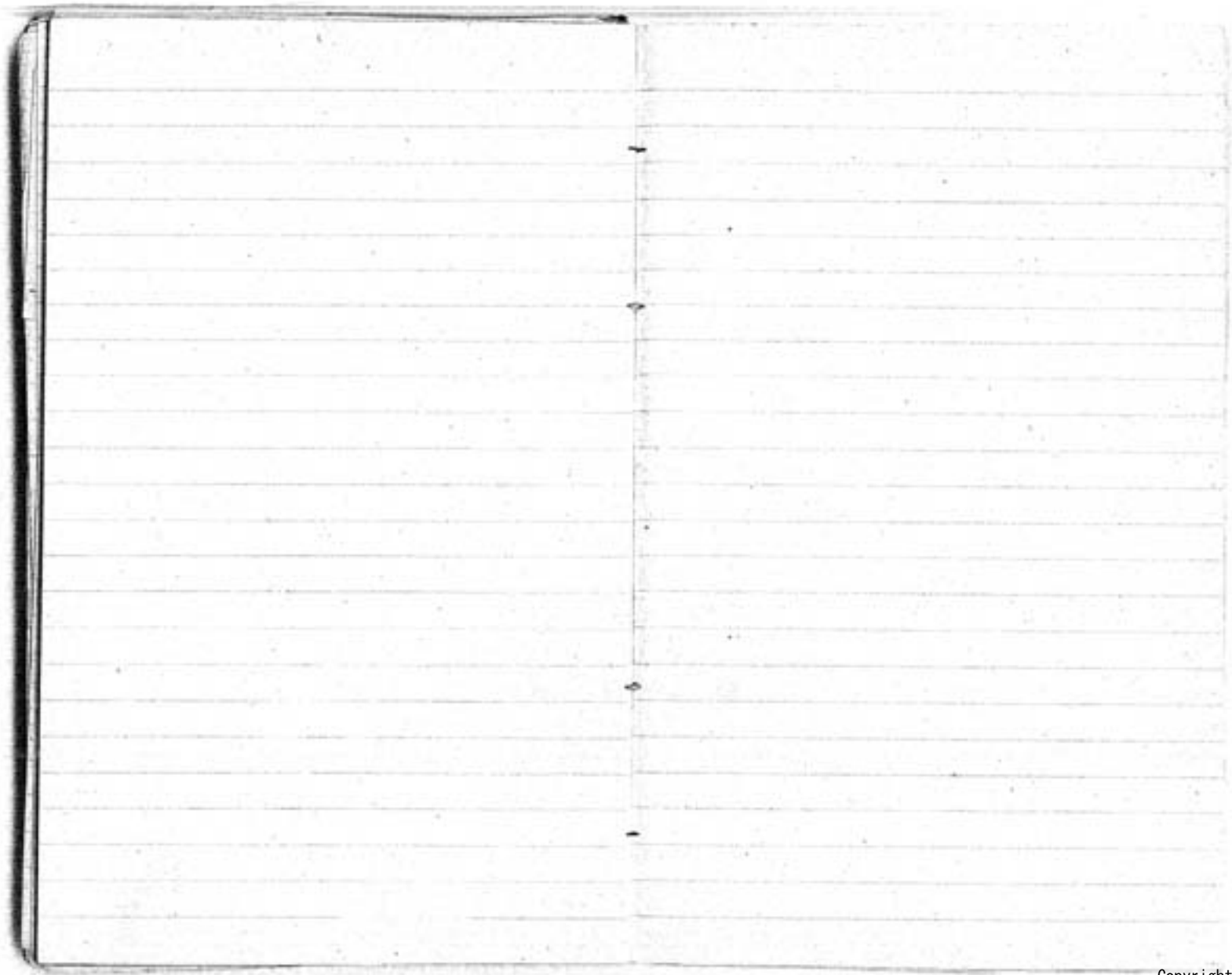
山子山子山

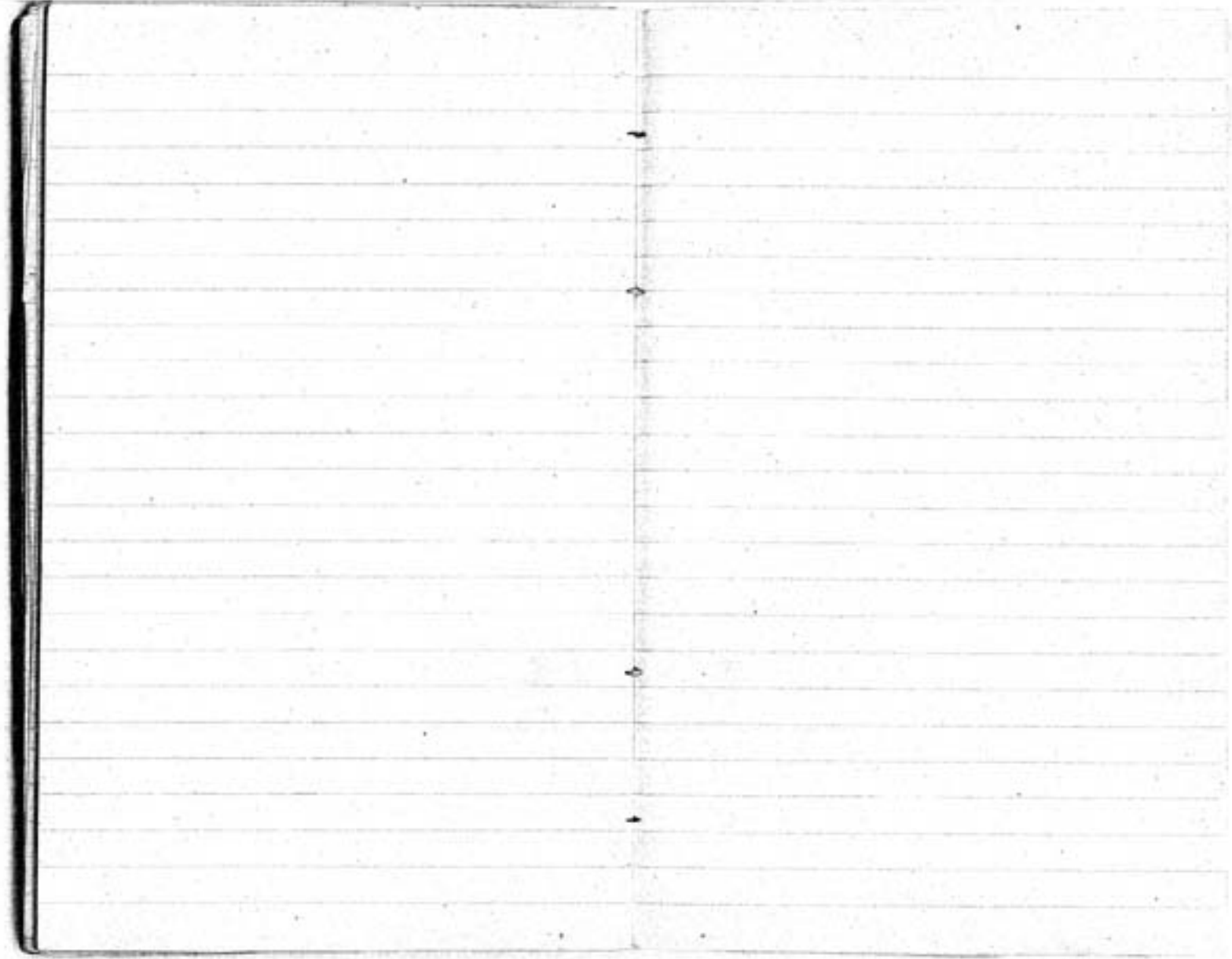


五管川、豊後大津、碓波の景色









44332-66 | 66773; - |
 55443-77 | 22332; - |
 66554-7 | 55772-1-1 |
 66447-44 | 44 5 3
 55336-44 | 33 112; - |
 44332-66 | 66773; - |
 55443-77 | 22332; - |

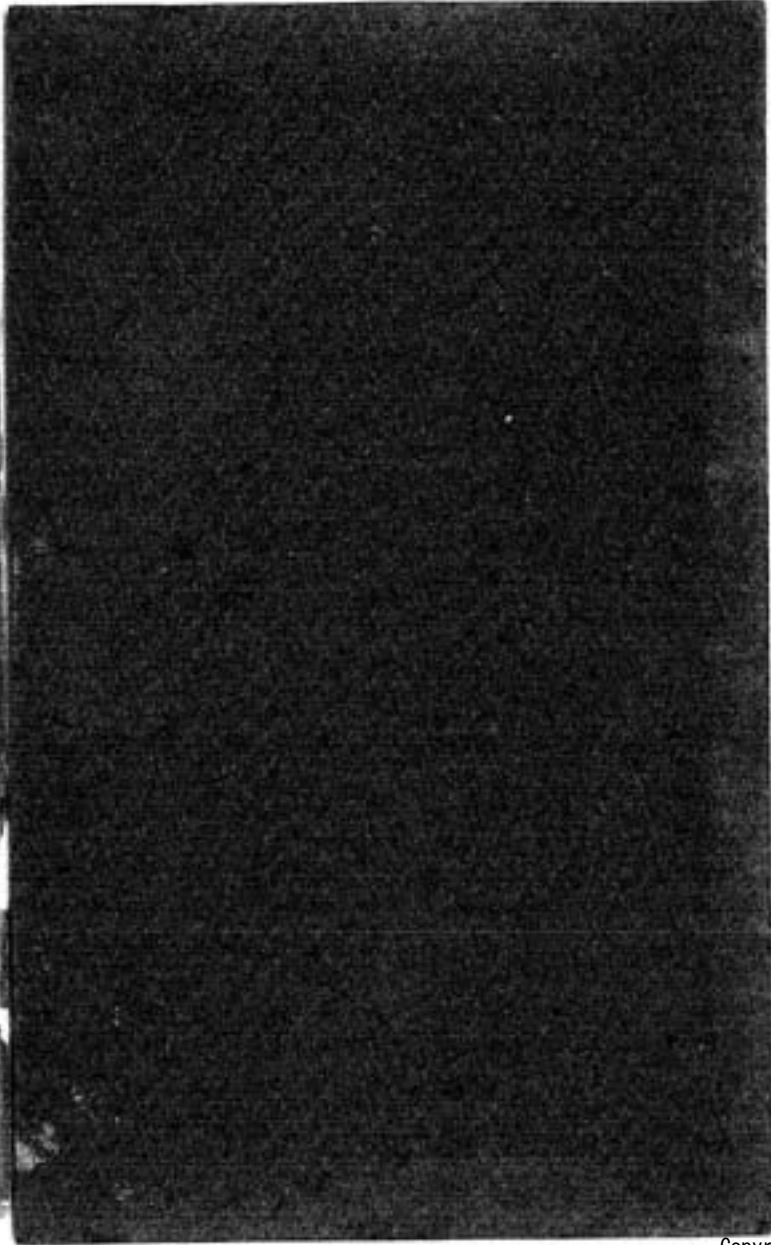
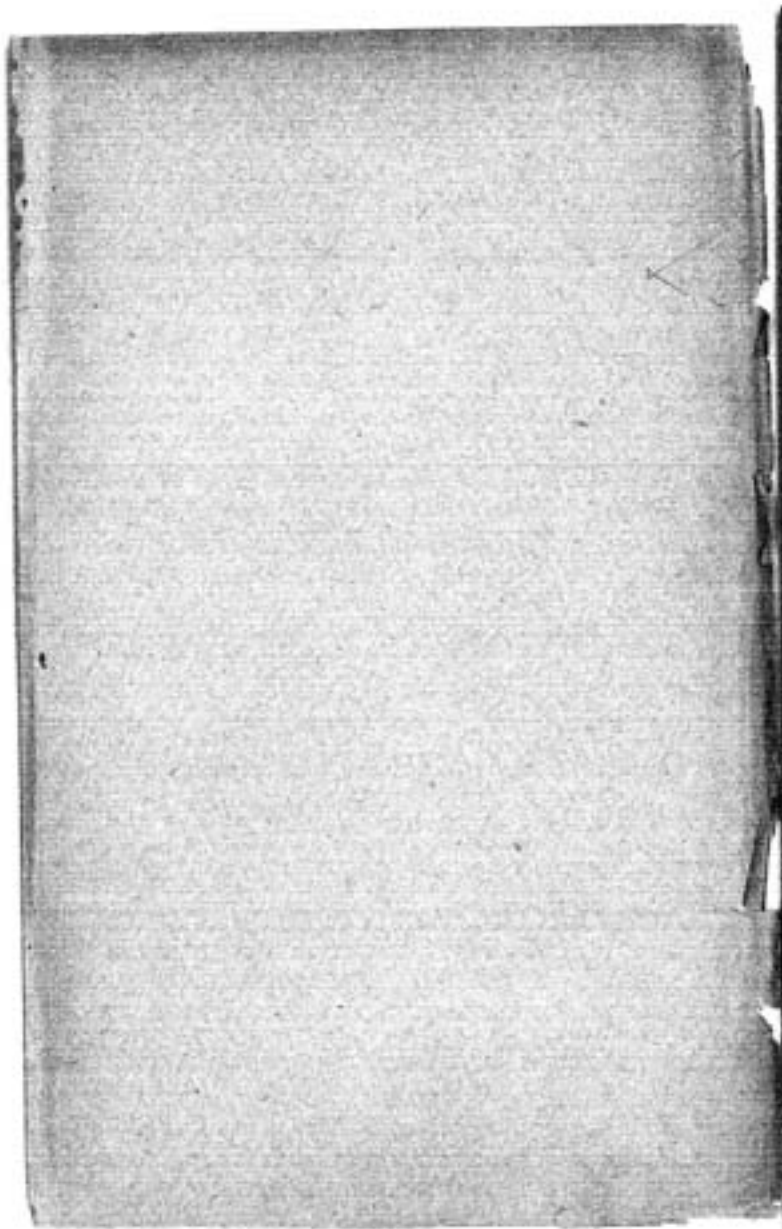
合計出、部

470	山下分浸車賃
470	月分分浸車賃
30	冬假代
4	郵便代 (山下)
35	米水代 (〇)
12	〃 (〇)

天守 4-長 15年保証, 宗原 命
 275年

車賃

4





山正武ヲ見丸田

柳原道

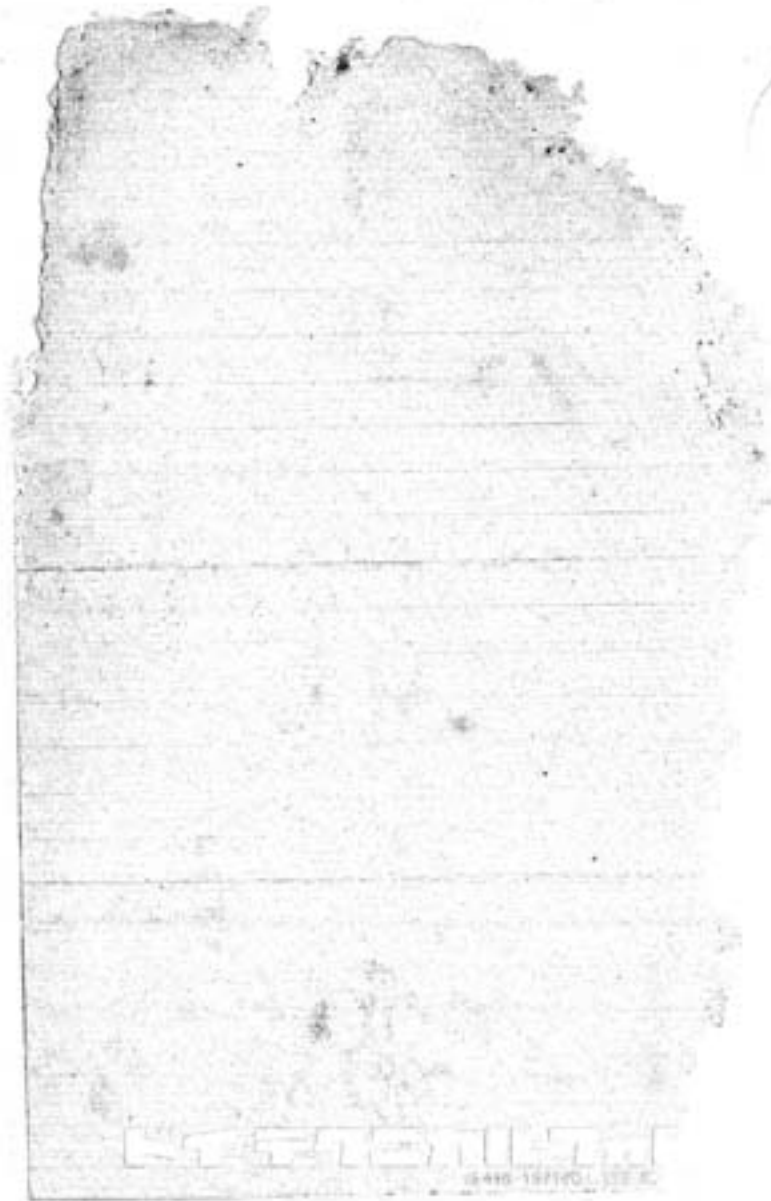
小

小

新

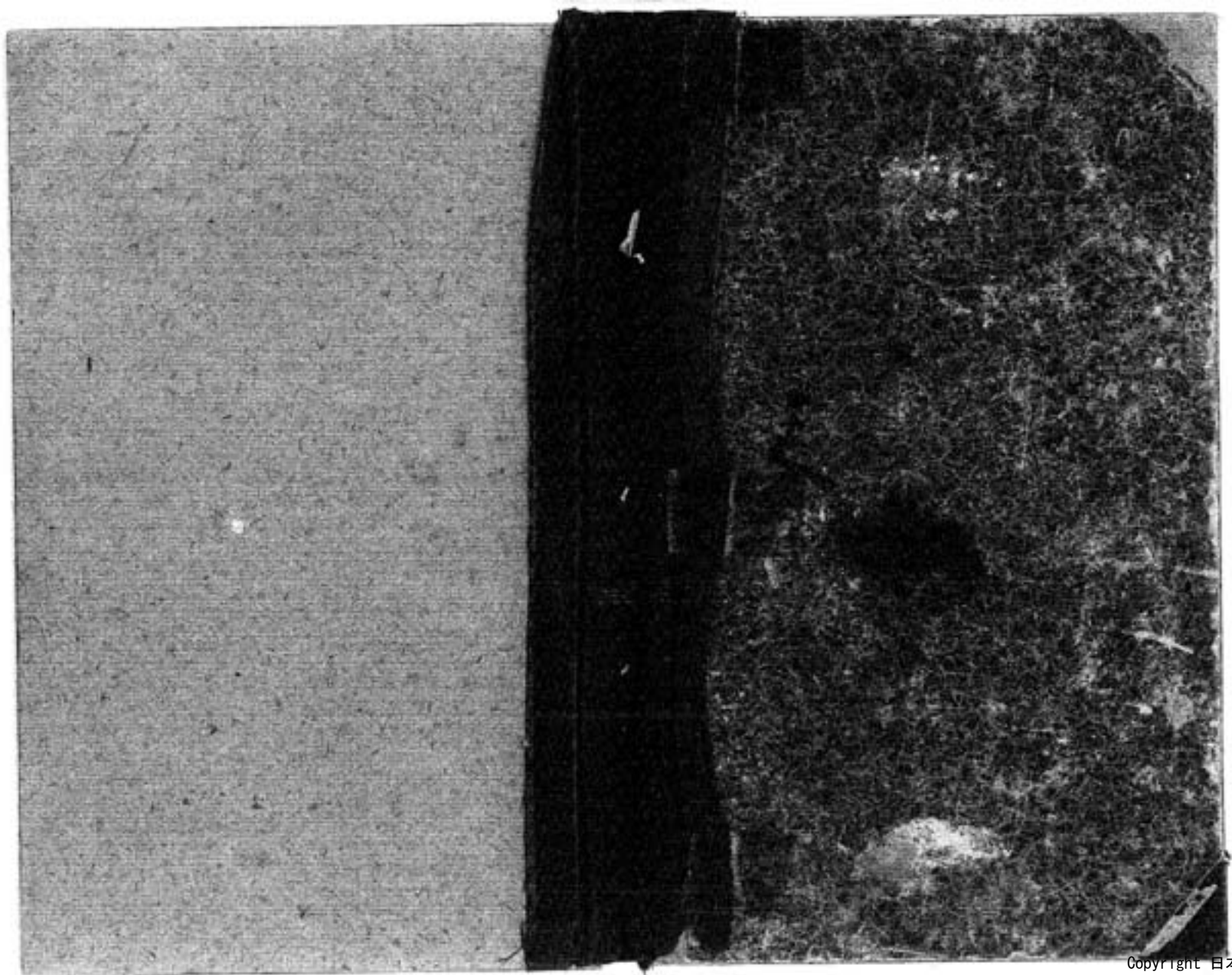
小





WESTERN

18415-187170, 111 E.



6-B

⑥-B

M. 23. 7. 6
~ 8. 7

日光方面見学記

(9.02記) 中村達太郎
山下啓次郎
河合茂次
伊東忠太

うきよたび